

新学習指導要領を踏まえた  
新しい授業づくりに関する研究

# 授業実践事例集

中学校編

2010年2月

岡山県総合教育センター

授業実践事例集  
(中学校編)

平成二十二年二月

岡山県総合教育センター

この「授業実践事例集」は、岡山県総合教育センターの所員研究として平成20年度と21年度の2年間にわたって取り組んだ「新学習指導要領を踏まえた新しい授業づくりに関する研究」の成果をまとめたものです。各教科及び道徳について各6ページの構成となっており、授業づくりのポイント、授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際（授業実践事例）、これからの方向性について解説しています。

この「授業実践事例集」は、当センターのWebページからダウンロードすることができます。貴校の授業づくりの一助として御活用いただければ幸いです。

**【授業実践事例集のURL】**

[http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h21/kyouka\\_jyugyou/index.htm](http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h21/kyouka_jyugyou/index.htm)

目 次

**【中学校編】**

国語	1
社会	7
数学	13
理科	19
音楽	25
美術	31
保健体育	37
技術・家庭〔技術分野〕	43
技術・家庭〔家庭分野〕	49
外国語	55
道徳	61



## 1 国語科授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説国語編（平成20年9月）では、「内容の構成の改善」「学習過程の明確化」「言語活動の充実」「伝統的な言語文化に関する指導の重視」といった内容が、改訂の要点として挙げられています。これらは、中学校国語科の授業づくりの根幹にもかかわるもので、多くの実践上の課題が想定されます。

そこで、中学校国語科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 3年間を見通した指導計画の作成

新学習指導要領では、これまで第2学年及び第3学年でまとめて示されていた目標と内容が学年ごとに示されました。ただし、示された内容を該当する学年に形式的に当てはめたり、その学年だけで指導を終えたりするのではなく、生徒の言語能力が螺旋的に高まるよう前後の学年及び小学校の指導内容も考慮した指導計画を立てることが必要です。また、例えば、「書くこと」では、「課題設定や取材」「交流」に関する指導事項が新設されるなど、学習過程が明確になるように内容が構成されています。これは、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることと深くかかわります。このような観点に基づいて指導計画を作成することが大切です。

### Point 2

#### 言語活動を通した指導事項の指導

各学年の内容の指導に当たっては、(1)身に付けさせたい言語能力（指導事項）を明らかにし、(2)それにふさわしい学習活動（言語活動）を確定し、(3)教材・題材を決定する、という基本的な考え方を踏まえて授業づくりを行う必要があります(図1)。つまり、授業で取り上げる言語活動を通して、どの指導事項を指導するのかを明確にし、指導事項と言語活動を密接に関連させた授業づくりを行うことが基本となります。ここで取り上げる言語活動は、生徒の実態に応じてより具体化し、系統的に指導することが大切です。

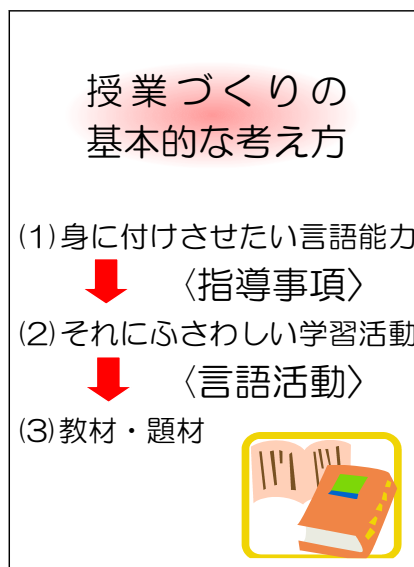


図1 授業づくりの基本

### Point 3

#### 古典に親しみを持たせる授業づくり

今回の改訂で、「読むこと」の配慮事項に示されていた古典の指導が、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に位置付けられたことで、他の領域と関連付けて古典を指導することが可能になっています。そこで今後は、小学校における古典の学習も踏まえて、学年ごとの系統性に配慮しながら指導し、古典に対して抵抗感や苦手意識を持たせないようにすることが重要です。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

「C読むこと」 第2学年

古典に親しむ ～「平成版 徒然草」を創作しよう～

Point 2

Point 3

〈 言語活動を通して指導事項を指導し、古典に親しみを持たせる 〉

指導事項 エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つこと。

言語活動例 ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

ア(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

## 1

### 実践のねらい

新学習指導要領では、伝統的な言語文化について、小学校から系統的に関心を広げたり深めたりすることを重視しています。古典特有のリズムのよさに気付かせることはもちろん、古典の世界の情景や人物の心情を味わわせ、古典に親しみを持たせることが大切です。本実践では、昔の人のものの見方や感じ方に触れ、自分の知識や経験と関連付け、現代につながる古典の世界を実感させることで、古典に親しみを持たせることを重視しました。古典の世界に親しみを持たせるためには、作品の内容を理解し、味わわせることが大切です。そこで、現代語訳から読み始め、内容を十分理解した上で原文に触れさせることとしました。

さらに、「平成版 徒然草」を創作する活動を取り入れ、現代との共通点や相違点に気付かせ、古典を身近に感じ、親しみを持たせたいと考えました。

## 2

### 学習指導の実際

◆教材 「仁和寺にんなじにある法師（第52段）」「堀池こまいぬの僧正（第45段）」「猫また（第89段）」  
「狛犬（第236段）」（「徒然草」兼好法師）

#### 1 目標

- 昔の人のものの見方や感じ方に触れ、自分の考えを持ちながら読もうとしている。  
【国語への関心・意欲・態度】
- 昔の人のものの見方や感じ方に触れ、自分の体験と比べたり関連付けたりすることを通して、自分の考えを持つことができる。  
【読む能力】
- 登場人物や作者の思いを想像しながら読むことができる。  
【言語についての知識・理解・技能】

## 2 ねらいを踏まえた実践上のポイント

「仁和寺にある法師」は、生徒が興味を持ちやすい内容です。しかし、この章段のみで作者のものの見方を想像することは難しいため、生徒が情景を想像しやすい三つの章段を取り上げ、現代語訳を比較して読むこととしました。これらの章段は、作者のものの見方を想像しやすく、現代に通じる部分も見だしやすいので、生徒は自分の知識や体験と重ね合わせて読むことが期待できます。

また、本単元の第三次に、「平成版 徒然草」の創作を位置付け、日常生活から題材を探して表現させる活動を取り入れることにより、生徒は作品世界と現代との結び付きに気付きやすくなり、より一層古典に親しむことができるようになります。

## 3 単元の指導計画（全6単位時間）

次	主な学習活動	評価規準
第一次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「仁和寺にある法師」の現代語訳を読み、作者のものの見方や感じ方をとらえる。</li> <li>○自分と作者のものの見方や感じ方を比べ、共通点や相違点をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者のものの見方や感じ方に対する自分の考えを持ち、共通点や相違点をワークシートに書いている。</li> </ul>
第二次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「堀池の僧正」「猫また」「狛犬」を現代語訳で読み、それぞれの話の面白さを味わう。</li> <li>○それぞれの章段の人物像や話の面白さをまとめる。</li> <li>○文語表現を味わいながら朗読をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者のものの見方や感じ方に触れ、それに対する自分の考えをワークシートに書いている。</li> </ul>
第三次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までに学習した章段に似た経験を想起し、題材を探す。</li> <li>○文語表現を取り入れて、「平成版 徒然草」を創作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人のものの見方や感じ方に触れ、自分の体験と関連付け、自分の考えを作品の中に書いている。</li> </ul>
第四次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いの作品を読み、評価し合う。</li> <li>○古典に表れたものの見方や感じ方に触れ、登場人物や作者の思いを想像し、考えたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に表れたものの見方や感じ方に対する自分の考えを書いている。</li> </ul>

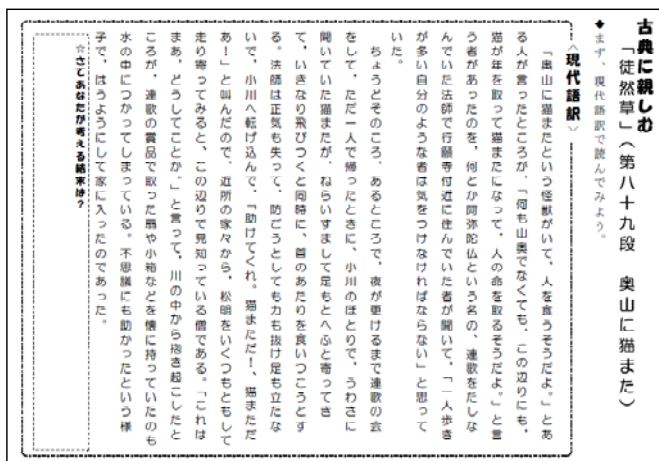


図2 現代語訳を掲載したワークシートの例

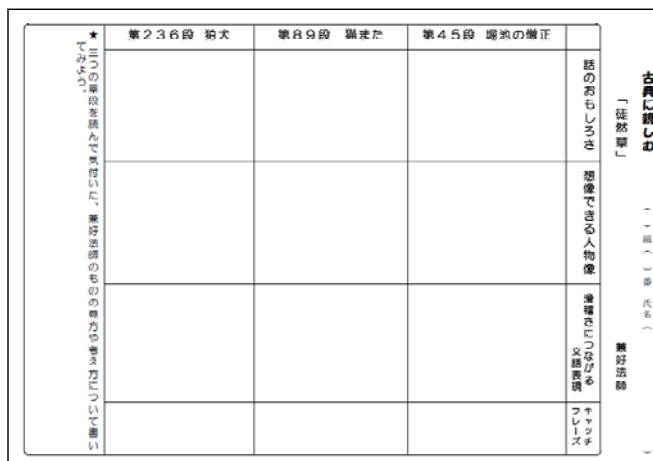



図3 ワークシートの例「比較読み」

4 授業展開例（第二次及び第三次 4 単位時間分）

次	学習活動	教師の支援	評価規準
第二次	<p>1 「堀池の僧正」「猫また」「狛犬」を比較して読み、それぞれの話の面白さを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「堀池の僧正」を読み、三つのあだ名が付いた理由を考え、感想を交流する。</li> <li>・「猫また」を読み、話の結末を予想し、考えを交流する。</li> <li>・「狛犬」を読み、話の面白さを味わい、感想を交流する。</li> <li>・登場人物の人物像や話の面白さをまとめる。</li> </ul> <p>2 作者のものの見方や感じ方に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>3 それぞれの章段の面白さにつながる文語表現を味わいながら朗読をする。</p>	<p>◇現代語訳を比較して読ませることで、古典学習への抵抗感を軽減し、内容の面白さを味わいやすくする（図2）。</p> <p>◇交流する際には、そのように考えた根拠を明確にするよう助言する。</p> <p>◇ワークシート（図3）を活用し、三つの章段に表れた登場人物の人物像や話の面白さを整理し、理解を深めさせる。</p> <p>◇作者のものの見方や感じ方が表れている表現を根拠に自分の意見を交流するよう助言する（図4）。</p> <p>◇グループごとに発表させ、それぞれの工夫を称揚する。</p>	<p>◆昔の人のものの見方や感じ方に触れ、自分の考えを持ちながら読もうとしている。</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】</p>  <p>図4 生徒の様子</p> <p>◆作者のものの見方や感じ方に触れ、それに対する自分の考えをワークシートに書いている。</p> <p>【読む能力】</p>
第三次	<p>1 前時までに学習した章段に似た経験を想起し、題材を探す。</p> <p>2 伝えたいエピソードや自分の考えを明確にして文章の構成を工夫する。</p> <p>3 取り入れやすい文語表現を選び、「平成版 徒然草」を創作する（図5）。</p>	<p>◇「家族や友達、先生などへの取材」を通し、身近なことから幅広く題材を見付けられるようにする。</p> <p>◇前時までに学習した章段の文章の構成を手がかりに話の展開を工夫させる。</p> <p>◇取り入れやすい文語表現を集めたリストを示し、それを手がかりに表現しようとする内容にふさわしい表現を選んで描写を工夫できるようにする。</p>	<p>◆自分の知識や体験を想起し、それに対する自分の考えを文章構成の中に位置付けている。</p> <p>【読む能力】</p> <p>◆昔の人のものの見方や感じ方に触れ、自分の体験と関連付け、自分の考えを「平成版 徒然草」の中に書いている。</p> <p>【読む能力】</p>

## 1 授業の様子

現代語訳から読み始めたことで、生徒は抵抗感なく、昔の人の思いを想像しながら読むことができました。作品の内容が分かり、現代の生活とのつながりを見付けることができれば、古典における学びも日常生活に生かせることを実感し、古典への親しみも一層深まるということを生徒の作品や感想からうかがうことができました（図5・表1）。

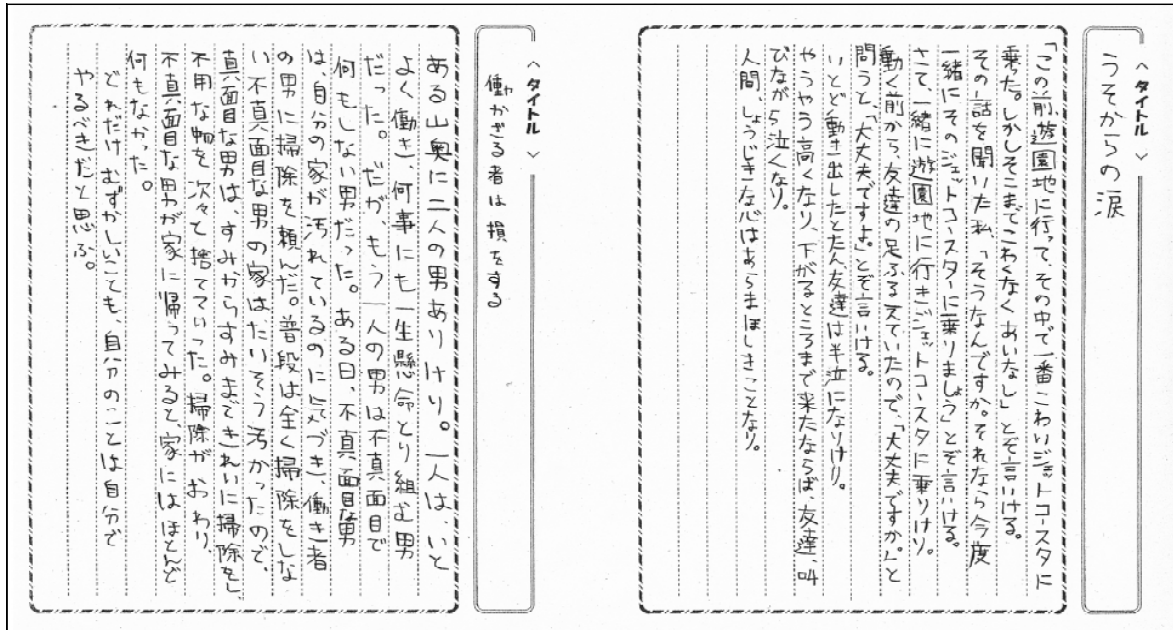


図5 生徒作品「平成版 徒然草」

表1 授業後の生徒の感想

- ・文化は発達しても、人々の考え方はあまり変わっていないのだと思い、何だかほっとした。
- ・昔から人はいろいろな考えを持っていて面白いなと思った。現代にもこんな人がいるなとも思った。古典上の人物ならこのときどう思い、どういう行動をとっただろうと考えてみたい。
- ・「平成版 徒然草」を書いたのが、難しかったけれど面白かった。もっと違う話も読んでみたい。
- ・昔の人の生き方にすごく興味を持ったので、違いを感じながら、古典のよいところを今の自分の生活に取り入れていきたい。

## 2 実践を終えて

授業で使用する現代語訳は、教材の特性や生徒の実態に応じて工夫して作成することが大切です。また、「平成版 徒然草」のように取り入れる表現活動は、作品の特性に応じ、ねらいを明確にした上で具体化する必要があります。今後も古典の内容や表現のよさを味わえる学習活動を工夫し、古典に親しみを持つことができる授業づくりをしていきたいものです。

## 実践上の留意点

中学校での古典指導で大切なことは、古典に対して抵抗感や苦手意識を持たせないようにすること、古典を学ぶことに意味を見だし、古典をもっと読んでみたいと思う生徒を育てることです。本実践での「平成版 徒然草」の創作や現代語訳での内容理解という工夫のように、言語活動を通して目標を達成するという視点を明確にして、生涯にわたって古典に親しみを持たせることが大切です。

# 3

## これからの方向性

これからの中学校国語科では、「言語活動の充実」を目指した授業づくりが必要です。そのためには、身に付けさせたい言語能力とそれにふさわしい学習活動を明確にした授業を構想することが大切です。そして、こうした指導が年間指導計画に基づいて実施されることが重要となります。新学習指導要領では、各領域の指導事項及び言語活動例、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を関連付けながら、その系統化が図られています。そこで、その系統性を意識した指導計画を立て、「言語活動の充実」を目指した授業づくりを推進していく上でのポイントを次に示します。

### 指導計画

### 指導事項と言語活動を明らかにした年間指導計画の作成

言語活動を充実させるためには、指導事項と言語活動を明らかにした年間指導計画を作成することが大切です。年間指導計画の形式としては、様々なものが考えられます。図6に示したものは、横軸に単元名（教材・題材）を、縦軸に指導事項及び言語活動例を設定した形式例です。この形式を用いることにより、その単元でどのような言語活動を通してどのような言語能力を身に付けさせるのかを一覧することが可能となり、1年間の見通しも持ちやすくなります。

(教科目標)	NO.	月				
		1	2	3	4	5
国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。	単元名 (教材・題材)	○	○	○	○	○
	指導時数	6				
指導事項	話類設定 や取材	日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	◎			
	話すこと	全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。				
	聞くこと	話す速度や音量、言葉の調子や聲の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。				
	話し合うこと	必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	○			
言語活動例	ア	話合いの話題や方向性をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。				
	イ	日常生活の中の話題について確言や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。	●			
	イ	日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。				

図6 年間指導計画の記入例

### 教材開発

### 趣旨を生かした教材の開発

新学習指導要領では、古典に関する教材について、古典の原文に加えて、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げるよう定められています。これは、生徒が古典に親しみを持てるようにすることをねらいとしたものです。このように、ねらいに応じて生徒一人一人が意欲を持って学習に取り組み、その意義や喜びが自覚できるような教材を精選して取り上げることが求められています。教材を開発する際には、例示されている言語活動が十分に行われるよう配慮する必要があります。



### 読書活動

### 学校図書館の計画的な利用と、その機能の活用

読書の指導については、目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを形成することが求められています。また、日常的に読書に親しませるために、学校図書館などの計画的な利用や、その機能の活用を図ることが必要とされています。資料の集め方、調べ方、まとめ方などを知ったり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることは、主体的に学習に取り組む態度を育成する上で重要です。

○参考文献

・ 文部科学省 (2008) 「中等教育資料」 6月号, ぎょうせい





## 1 社会科授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説社会編（平成20年9月）では、基本的な改訂の方針として「基礎的・基本的な知識，概念及び技能の習得」「言語活動の充実」「社会参画，伝統や文化，宗教に関する学習の充実」の3本柱が挙げられています。それに伴って新しい学習内容が加わり，多くの実践上の課題が想定されます。

そこで，中学校社会科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 単元同士の関連付けを意識した学習指導計画づくり

学習に入る前の生徒の知識，概念及び技能を把握した上で，本時の学習活動で身に付けていくべき知識，概念及び技能を明確にしておくことが求められます。また，本単元で身に付けた知識，概念及び技能が，後に活用される単元はどこなのかを想定しながら，系統性を持って指導できるようにしておくことが大切です。このような観点で各単元の学習を見通した学習指導計画を作成しておけば，生徒にとって無理のない学習活動が可能になり，活用できる知識，概念及び技能の習得を有効に図ることができます。

### Point 2

#### 学習した内容を他の事象に当てはめたり比較したりする活動の工夫

学習した内容を他の事象に当てはめたり比較したりして，互いの共通点や相違点を見いだすことで，帰納的な考察や演繹的な考察ができるようになります。このような考察を積み重ねることで社会的な見方や考え方が身に付いてきます。社会的な見方や考え方が身に付くと，生徒は社会的事象の意味・意義を解釈したり，事象の特色や事象間の関連を説明したりすることができるようになってきます。単元の導入から単元のまとめまでの学習活動の中に，社会的な見方や考え方の育成という観点から，学習成果を他の事象に当てはめたり比較したりする活動を取り入れていくことが重要です。

### Point 3

#### 小学校での学習内容を生かした授業計画の作成

例えば，中学校で学習していた地理的分野の内容の一部が小学校第4・5学年で学習されるようになるなど，従来にも増して小学校との学習の関連を図る必要が出てきました。また，小学校第6学年の歴史学習では，42名の歴史上の人物の学習や文化遺産を通してその当時の社会の様子を学習するようになっていきます。中学校で学習する大きな歴史の流れの中に，これらを適切に位置付けて学習させるようにしていくことが大切です。既習の知識の活用や発達の段階に応じた校種間の円滑な接続という観点からも，授業づくりを考えてみるのが重要です。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名「身近な地域の調査」

Point 1

Point 2

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

平成20年告示の中学校学習指導要領では、地理的分野の内容構成を改め、「身近な地域の調査」を既習の知識、概念及び技能などを活用する探究型の学習として、地理的分野のまとめに位置付けています。そして、身近な地域の地域的特色を追究する中で、そこでの課題を見だし考察することを学習内容としています。ここでは、早島町立早島中学校区を例に紹介します。

身近な地域の地域的特色やそこでの課題に気付かせるためには、それらに関する知識や概念、追究するための技能をそれまでの学習で習得させておく必要があります。平成元年告示の学習指導要領までの日本の諸地域に関する学習は、自然環境、産業などの項目ごとに地域的特色をとらえる、いわゆる静態地誌的な学習が多く見られ、網羅的な学習や知識偏重の地理学習に陥りやすいという問題点が指摘されています。平成20年の改訂では、地域的特色ある事象を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて地域的特色をとらえる、いわゆる動態地誌的な学習を行うことで、汎用性のある地理的な見方や考え方の基礎を養うことに重点が置かれています。地理的分野のまとめに位置付けられた単元「身近な地域の調査」で、その学習成果が生かされる構成になっています。

そこで本実践では、学習指導要領移行期ということを考慮して、地域的特色や地域の課題を意識しつつ、単元同士の関連を図り、現行の学習指導要領の項目を組み替えて動態地誌的な学習を踏まえた単元指導計画を作成し、実践を試みました（表1）。Point 1

早島町は、交通網の整備により、流通団地や住宅団地が造成され、人口が増加してきたという地域的特色が見られます。ここでは、生徒が地域的特色をとらえるための調査テーマを設定し、その理由を予想する際に、これまでに養われた地理的な見方や考え方が生かされると考え、生徒が予想を立て、調査計画作りを行った学習場面を中心に紹介します。

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 本単元でとらえさせたい地域的特色と地域の課題

早島町は、交通網の整備により、流通団地や住宅団地が造成され、人口が増加してきた町である。しかし、最近では「地域人口増加の鈍化」という課題を抱えている。

#### 2 身近な地域の地域的特色と地域の課題を見通した単元指導計画

表1 「身近な地域の調査」に関連する単元指導計画

主な学習活動の種類	主な学習内容及び学習活動 ( [ ] 内の数字は時間数 )	指導上の留意点
	「(2) 地域の規模に応じた調査」 (ア) 身近な地域 [11] ・地形図の学習 [2] ・地域の情報を収集・加工しよう [1] (後の「身近な地域の変化について調べよう」に続く)	・地形図の読図技能、統計資料の入手方法、収集した資料の地図化、グラフ化の技能など、地理的技能の習得を目的とする。

習得  
・  
活用

単元同士の関連付けを図るための留意点

- ・生徒が生活している早島町の地図や統計資料等を用いて早島町の様子を概観させる。
- ・地理的技能の基本である地形図の読図や統計資料を収集、分析、加工し表現する技能を習得させる程度にとどめる。

(イ) 都道府県 [12]

- ・岡山県 [6] 静態地誌的な学習

- ・岡山県では、「交通網の整備と地域の変容」を重点的に扱う。

単元同士の関連付けを図るための留意点

- ・岡山県内における交通網の整備と地域の変容については重点的に考察させ、地理的な見方や考え方の一つである「交通網の整備と地域や産業の変容」を習得させる。

- ・山形県 [3] 動態地誌的な学習

- ・山形県では、「交通網の整備と産業への影響」について扱う。

- ・東京都 [3] 動態地誌的な学習

- ・東京都では、「交通網の発達と都市の拡大」について扱う。

単元同士の関連付けを図るための留意点

- ・山形県では、山形新幹線や山形自動車道の開通が地域産業にどのような影響を与えたのかを考察する。東京都では、日本の政治、経済、文化の中心として発展していることを確認し、それらの背景として交通網の発達があることを伝えた上で、交通網が発達した沿線の地域はどのように変化してきたのかを考察させる。
- ・山形県と東京都を調べる学習を通して、岡山県の学習で習得した「交通網の整備と地域や産業の変容」を他地域にも当てはめて考察することができ、より一層確かな地理的な見方や考え方を養うことができる。 Point 2

「(3) 世界と比べてみた日本」

- (オ) 地域間の結び付きからみた日本の地域的特色 [3]
- ・日本の交通・通信網 [1]
  - ・交通網の発達と地域の変化 [2]

- ・新潟県と瀬戸大橋の事例を扱い、交通網の発達と地域の変容について、景観写真や資料から事実を読み取り、既習の知識を使って説明することができるようにする。

探  
究

単元同士の関連付けを図るための留意点

- ・瀬戸大橋の事例を手がかりに身近な地域の学習への意欲を高める。
- ・都道府県の学習の内容を生かし、地理的な見方や考え方を更に確かなものにさせる。

- ・身近な地域の変化について調べよう [8]

(前述「(2) (ア) 身近な地域」に続く)  
第一次 早島町の地域的特色をとらえよう [2]

【課外】早島町の景観を観察しよう  
第1時 統計資料から地域的特色をとらえよう

第2時 早島町を調べるテーマ(問い)を設定しよう

第二次 早島町の地域的特色を追究しよう [5]

第1時 テーマに対する仮説を設定し調査計画を立てよう(本時)

第2時 仮説を基に、テーマについて調べよう

第3時 調べたことを分析しよう  
第4時 調べたことをまとめよう

- ・休日の課題として野外観察を行わせ、地域についての情報や写真、資料を収集させる。
- ・統計資料を分析させ、地域を調べるテーマを導き出せるようにする。

- ・問いに対する仮説を設定させることで、検証のための資料収集や考察に際して、前例を基に計画的に行えるようにし、効率的な調べ学習を行うことができるようにする。

<p>第5時 追究した結果を発表しよう</p> <p>第三次 早島町の地域の課題について考えよう [1]</p> <p>第1時 早島町の将来について討論しよう</p> <p>(課外) 早島町の将来像をレポートにまとめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ設定の際に使った統計資料を更に分析させ、早島町の将来像を予想させる新たな問い(地域の課題)を導き出させる。</li> </ul>
--	---

### 3 授業展開例 (第二次の第1時)

#### (1) 本時の目標

- ・第一次第2時で設定した調査テーマ「なぜ、早島町では昭和45年から昭和60年にかけて人口が大幅に増加したのだろうか」に対して、既習事項を想起しながらそれに対する仮説を設定することができる。  
(社会的な思考・判断)
- ・仮説を検証するために適切な調査方法や資料の入手方法を検討し、見通しを持った調査計画を作成することができる。  
(資料活用の技能・表現)

#### (2) 本時の主な学習活動

学習活動	指導上の留意点	評価の観点〈方法〉
1 前時に設定した調査テーマを確認する。	○前時の内容を振り返らせ、調査テーマを再確認させる。	
2 本時の学習目標を確認する。	調査テーマに対して仮説を設定し、検証するための調査計画を立てよう。	
3 調査テーマに対して仮説を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個人でそれぞれの仮説を設定させた後、グループで話し合い、一つの仮説にまとめよう指示する。</li> <li>○仮説を設定しにくい生徒に対しては、新潟県や山形県など、前時までの学習で扱った事例を想起するよう助言する。</li> <li>○昭和45年から昭和60年にかけて、早島町では人口の増加以外にどのような変化があったのか予想するよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査テーマに対する仮説を設定することができたか。 (社会的な思考・判断) 〈発表, ワークシート〉</li> </ul>
4 各グループの仮説を発表する。	○各グループの仮説を発表させることで、一つの課題に対しても多面的、多角的な考察ができることに気付かせたい。	
5 それぞれが設定した仮説を検証するための調査方法について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各グループで設定した仮説を検証するためには、どのような資料を使い、どのような関係が見いだせればよいのかを話し合い、調査計画を立てるよう助言する。</li> <li>○身近な地域の調査で配った地形図や統計資料を活用するよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮説を検証するための調査計画を作成することができたか。 (資料活用の技能・表現) 〈発表, ワークシート〉</li> </ul>
6 次時の予告を聞く。	○調査に必要な資料を分担して集めておくよう指示する。	

## 1 本時の授業の様子

生徒は、設定された調査テーマに対して仮説を設定する際、都道府県の学習で身に付けた地理的な見方や考え方の一つである「交通網の整備と地域や産業の変容」を生かしていました。生徒は生活している地域の景観観察、町勢要覧、新旧の地形図の読図から、早島町内に住宅団地や流通団地が多く見られることや、国道2号線や瀬戸中央自動車道などの交通網が見られることをつかんでおり、調査テーマに対して「住宅団地ができたからではないか」「高速道路が開通したからではないか」など、生徒は各自で仮説を設定することができました(表2)。これらの仮説はレベルの差はあるものの、その内容を見ると交通網の変化と地域の変容という視点がうかがえます。その後、グループで各自が設定した仮説やその検証の方法を検討する中で、「住宅団地の建設と高速道路などの開通は関係があるのではないか」などと話し合うグループも見られました(図1)。このように、生徒はそれまで個別の知識としてとらえていた事象を「交通網の整備と地域や産業の変容」という地理的な見方や考え方を生かすことで両者を結び付けてとらえ、両者の関連に気付くことができました。

表2 生徒が考えた仮説(抜粋)

- ・交通が便利になったからではないか。
- ・町内に団地が増えて住みやすくなったからではないか。
- ・早島駅と国道2号線ができたからではないか。
- ・流通センターができたからではないか。
- ・国道や高速道路が開通したり、住宅団地ができたりして人口が増えたのではないか。



図1 仮説を検討する生徒

## 2 実践を終えて

これまでの身近な地域の調査は、地域の地理的事象を個別の知識として理解させたり、地形図の読図などの地理的技能を習得させたりすることにとどまるといった課題がありました。本実践では、身近な地域の地域的特色と地域の課題を明らかにし、それらを生徒に気付かせたり、追究させたりするのに必要な知識、概念及び技能などをそれまでの学習で習得できるように、単元指導計画を作成しました。そうすることで、地理的分野のまとめとして探究的な学習が展開しやすくなることが分かりました。課題としては、実際の地域の変容は交通網の発達だけで説明できるものではなく、その当時の時代背景や地域住民の願いや努力など、様々な視点からの検証が必要になることが挙げられます。今後は、生徒が多面的、多角的な考察ができるよう、地理的な見方や考え方を社会的な見方や考え方に高めるための手だてを考え、公民的分野の学習につなげていく必要があります。

## 【引用・参考文献】

- ・早島町(2006)「早島町町勢要覧」

## 実践上の留意点

地理的な見方や考え方を身に付けることは、「身近な地域の調査」において実際に地域の様子を見る楽しさにつながります。同時に地理的分野の学習は暗記が中心であるという生徒の意識を揺さぶっていきます。そのためには、小学校からの学習を含めて系統性を考えて指導していくことが大切です。今回の改訂で地理的分野のまとめとして位置付けられた「身近な地域の調査」では、これまで身に付けてきた地理的な見方や考え方が十分に活用できることが前提条件になります。各単元で育てたい地理的な見方や考え方を明確にして授業に臨みたいものです。

## 8 これからの方向性

実践上の課題は、単元においても分野においても幾つかあります。すぐに解決できるものではなく、様々に工夫した実践を持ち寄りながら検討を加えて、解決していく必要があります。近隣の学校同士や自主的な研究グループなどでこれらの課題の具体的な解決策を検討し、効果的なものを互いに共有し合っていくことも考えられます。そこで、各分野の主な実践上の課題を次に示します。

### 地理的分野

#### 「世界の諸地域」「日本の諸地域」の単元の開発

「世界の諸地域」と「日本の諸地域」では、それぞれの地域的特色を示す地理的事象の選択が最大のポイントとなります。まずは「なぜこの地域にこのような地域的特色が見られるのか」という問いを設定して、どのような地理的事象を取り上げていくべきかをシミュレーションしてみることが大切です。

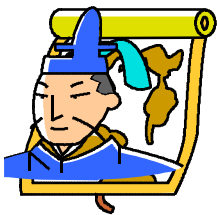
また、地球儀や掛け地図、地図帳の効果的な活用が必須の条件になります。最新のもの、地域別のものを提示できるような教具をそろえるとともに、それらを組み合わせて活用するなど、活用方法についても検討する必要があります。



### 歴史的分野

#### 時代の特徴を理解しやすくするための単元構成の工夫

「古代までの日本」「中世の日本」という学習指導要領の大項目単位で、各時代の特徴をとらえさせて表現させることが求められるようになりました。そのための単元構成を開発することが必要です。「古代までの日本」から「現代の日本と世界」まで、各時代の区切りごとにその時代の特徴を説明し合う学習を取り入れることで、生徒は時代の特徴を次第に理解していくことができます。あらかじめ、単元の導入と単元のまとめの方法を決めておくことで、その間の展開をどのように進めていけばよいかが見えてくるのではないのでしょうか。



時代の特徴を説明するための方法として、前の時代と比較するといった学習方法が有効になると考えます。多くの歴史的事象を細かく調べたり、ただ時系列に沿って年表に書き入れたりするのではなく、幾つかの視点から時代を大きくとらえる学習活動を取り入れた授業展開を検討する必要があります。

### 公民的分野

#### 「現代社会をとらえる見方や考え方」を身に付けさせた具体的事例の検討

「現代社会をとらえる見方や考え方」を身に付けさせる授業の中で、生徒にとって身近な事例を取り上げて、「対立と合意」「効率と公正」という概念をとらえさせていくことが大切です。しかも、生徒自身が、身近な事例に対する自分の考えをこのような概念に照らし合わせてみると考えやすくなることを理解することが必要です。授業の中で取り上げる適切な具体的事例を検討しておきましょう。

また、ここで身に付けた概念を、その後の単元の内容に生かすように意識付けていくことも大切です。例えば、生徒が国や地方公共団体の様々な制度を、このような概念に基づいて考察し、制度の意味や意義を話し合ったり、発表したりする学習を取り入れていくことが考えられます。



## 1 数学科授業づくりのポイント

中学校数学科においては、基礎的、基本的な知識及び技能を習得し、数学的に考える力をはぐくむとともに、数学のよさを知り、数学が生活に役立つことや数学と科学技術との関係などについての理解を深め、事象を数理的に考察する能力と態度を養うことが求められています。また、数学的活動は、基礎的、基本的な知識を確実に身に付けるとともに数学的に考える力を高めたり、数学を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものです。

そこで、中学校数学科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 数学的活動を位置付けた単元指導計画の作成

中学校数学科として重視している数学的活動は、「ア 数や図形の性質などを見いだす活動」「イ 数学を利用する活動」「ウ 数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動」の三つです。実感を伴った理解や思考力・判断力・表現力等の高まりを目指して、これらの数学的活動を各単元の指導に適切に位置付けることが大切です。中学校学習指導要領解説数学編（平成20年9月）には、各学年のア、イ、ウに該当する指導事例が掲載されているので、まずこれらを実践してみましょう。

また、すべての内容を数学的活動を通して指導するのではなく、知識及び技能の定着を図るためには、大切なことはしっかり教えることも必要で、練習などによる習熟の機会も適宜設けなければなりません。

### Point 2

#### 活用して考えたり判断したりする場面の設定

今回の改訂では、考えたり判断したりする際に、生徒が習得した知識及び技能を活用できるようにすることを重視しています。授業においては、上述の数学的活動のア及びイで示されているような活動などを取り入れ、既習の数学的な知識や表現・処理の仕方、数学的な見方や考え方など身に付けたことが、より進んだ数学の学習や日常生活に活用されていることを実感できる場면을積極的に設定することが大切です。

### Point 3

#### 事象を数理的に考察し表現する場面の設定

数学的な思考力・表現力は、合理的、論理的に考えを進めるとともに、互いの知的なコミュニケーションを図るために重要な役割を果たすものです。特に、表現することは、事象を数理的に考察する過程で、数や図形の性質などを的確に表したり、根拠を明らかにして筋道を立てて説明したり、自分の思いや考えを伝え合う場面で必要になります。

そのため、上述のウとも関連付けながら、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて表現することの必要性や有用性を実感できる場면을積極的に設定することが大切です。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名 資料の活用「資料の散らばりと代表値」

Point 1

Point 2

Point 3

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

今回の学習指導要領の改訂に伴い、領域構成が従来の3領域から、「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D 資料の活用」の4領域に改められました。さらに、各学年に数学的活動が位置付けられました。「D 資料の活用」は、確率・統計に関する領域で、今回の改訂で新設されました。本稿で紹介する授業実践事例は、今回新設された「D 資料の活用」における数学的活動を扱ったもので、授業づくりのポイントとして示した **Point 1** (数学的活動)、**Point 2** (活用)、**Point 3** (表現) の三つのポイントを位置付け、具体的な指導内容や指導方法、学習形態について提案しています。

ここで紹介する学習指導は、決して難しく特別なものではなく、教科書に沿った授業展開の中に、三つのポイントを効果的に位置付けたものとなっています。

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 目標

(1) 目的に応じて自ら資料を収集し、表やグラフに整理したり、資料の散らばりや代表値に着目したりして、その資料の傾向を積極的に読み取ろうとする。

【数学への関心・意欲・態度】

(2) 収集した資料を、目的に応じて表やグラフに整理したり、代表値を求めたりして、その資料の傾向を適切に読み取り、説明することができる。

【数学的な見方や考え方】

(3) 目的に応じて階級の幅を変えて資料を整理したり、資料の分布の様子や目的に応じて適切な代表値を求めたりすることができる。

【数学的な表現・処理】

(4) 資料の傾向を調べる方法として、度数分布表やヒストグラム、代表値などの必要性と意味を理解している。

【数量、図形などについての知識・理解】

#### 2 領域「D 資料の活用」について

急速に発展しつつある情報化社会においては、確定的な答えを導くことが困難な事柄についても、目的に応じて資料を収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが求められます。この領域では、そのために必要な方法を理解し、資料の傾向をとらえ説明することを通して、統計的な見方や考え方及び確率的な見方や考え方を培うことが主なねらいです。

また、領域の名称がかつての「資料の整理」から「資料の活用」になり、これにより、整理した結果を用いて考えたり判断したりすることの指導を重視することが示されました。

この領域の特性の一つは、結論が明確に定まらないような不確定な事象を、数学の考察の対象として取り扱うことです。そして、考察の結果導かれるのは事象についての傾向です。指導に当たっては、正解を求めるだけでなく、生徒が自分の予測や判断について根拠を明らかにして説明できるようにします。例えば、確率が3分の1であることを求めたら、確率が3分の1であることに基づいて判断したり説明したりできるようにします。



### 3 指導計画（全13単位時間）

	小単元名	主な学習内容
第 一 次	資料の散らばりと代表値 (9時間) 1 度数の分布 (3時間) ・度数分布表 ・ヒストグラム (柱状グラフ) ・度数折れ線 ・相対度数	○40人の生徒からなる学級(1組)の50m走の記録の一覧表を基にして、目的に応じて整理しようとしながら、本単元のねらいを理解する。また、度数分布表やヒストグラム、度数折れ線の必要性和意味を知り、表やグラフから資料の傾向を読み取る。 ○男女別、出席番号の奇数・偶数別の記録など、2種類の資料を表やグラフに整理し、ポイントを押さえて比較して、分かることをグループでまとめる。 ○相対度数の必要性和意味を知り、相対度数を求めて、資料の傾向を読み取る。また、度数折れ線の形と分布の様子にはどのような関連があるのかを考察する。
	2 範囲と代表値 (4時間) ・範囲 ・平均値 ・メジアン (中央値) ・モード (最頻値)  ※展開例1 (7/9)	○範囲と代表値の必要性和意味を知り、範囲や代表値(平均値)を求めて、資料の傾向を読み取る。また、度数分布表からおよその平均値を求める。 ○メジアンとモードの必要性和意味を知り、メジアンやモードを求めて、資料の傾向を読み取る。 ○グループごとに学級(1組)を二つのリレーチームに分け、表やグラフ、代表値などを適切に用いて、二つのチームを比較する。 Point1のイ ○前時に考察した2チームの傾向を、数学的な表現を用いて、できるだけ根拠を明らかにして説明し伝え合う。 Point1のウ Point3
	3 いろいろな問題 (2時間) ・「バスの所要時間の資料を基に度数分布表を作成し、これを活用する問題」 ・「今年と13年前の2月の毎日の最低気温をヒストグラムに表し、考察・表現する問題」	○「バスの問題」を通して、代表値の特徴についての理解を深め、表やグラフ、代表値を適切に活用して、課題に対する自分の考えをまとめる。 Point1のイ ○「気温の変化の問題」を通して、ヒストグラムの階級の幅について理解を深め、できるだけ根拠を明らかにして自分の考えを説明し伝え合う。 Point1のウ
第 二 次	近似値と有効数字 (1時間) 1 近似値 2 有効数字	○近似値と誤差の意味を理解し、真の値と近似値の関係について考えたり誤差を求めたりする。 ○有効数字の意味を理解し、近似値を、(整数部分が一けたの数)×(10の累乗)の表し方で表す。
	章末問題 (1時間)	(章末問題を解く。)
第 三 次	日常生活で数学を利用する活動 (2時間) 1 私の学習時間 (2時間) ※展開例2 (1/2)	○家庭学習時間について、本校第1学年における自分の位置を予想し、それを確かめるために、必要な表やグラフに整理したり、代表値を求めたりする。それらを適切に活用して予想を確かめる。 Point1のイ Point2 ○前時に確かめたことを、数学的な表現を用いて、根拠を明らかにして、グループ内で説明し合う。また、人の説明を聞いて適切にアドバイスすることができる。 Point1のウ

#### 4 展開例

##### (1) 展開例 1 (第一次 第 7 時) Point 1 のウ Point 3

目標	前時に考察した 2 チームの傾向をグループでまとめ、数学的な表現を用いて、できるだけ根拠を明らかにして発表できる。	
	学習活動	教師の支援等
1	本時の目的と展開を知る。 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートを用いて前時の学習を振り返る。</li> <li>○本時の目的と展開を知らせ、本時の学習に見通しを持たせる。</li> </ul>
1 組を二つのリレーチームに分け、そのチームの力を比べよう。		
2	4 人グループで学習する。 (1) 2 チームの傾向をグループでまとめる。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に各自が考察した 2 チームの傾向を、グループ内で説明させ、自分に欠けていた内容はメモを取るよう指示する。</li> <li>○互いに説明し合った内容を吟味し、2 チームを比較したときのそれぞれの傾向をグループでまとめさせる。</li> <li>○できるだけ数学用語を用いること、できるだけ理由を明確にすることを助言する。</li> </ul>
	(2) 発表の準備をする。(5分)	○4 人で「グラフ提示」「代表値報告」「分け方報告」「説明」を分担して、主体的な取り組みを促す。
3	学級全体でグループごとに発表する。(20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表した傾向や特徴が、根拠となる事柄から正しく導かれていることを全員で確かめ合うよう指示する。</li> <li>○2 チームでリレーしている様子を想定させ、グラフや代表値などから得られたことを、具体的なイメージとして膨らませることができるようにする。</li> <li>○教材提示装置を使い、整理した表やグラフがすぐに表示でき、それを用いて説明できる環境を整える。</li> </ul>
4	本時を振り返る。(5分)	○本時に学んだことや授業の感想をまとめる。

##### (2) 展開例 2 (第三次 第 1 時) Point 1 のイ Point 2

目標	家庭学習時間について、本校第 1 学年における自分の位置を予想し、整理した表やグラフ、代表値などを適切に活用して、予想を確かめることができる。	
	学習活動	教師の支援等
1	本時の目的を知る。(2分)	○各自の家庭学習時間が分かる調査表を事前に配付しておく。
2	自分の位置を予想する。(8分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習時間について、自分の位置を予想する視点を示し、イメージを膨らませて意欲的な取り組みを促す。</li> <li>○ワークシートを用いて本時の目的や流れを知らせ、本時の学習に見通しを持たせる。</li> </ul>
自分の学習時間は、第 1 学年の中で長い方だと言えるだろうか。		
3	4 人グループで学習する。	○分からないことや確かめたいことは遠慮なく声をかける、質問されたら最後まで教える、質問されなければ声をかけないというルールを確認する。
	(1) 目的に応じて、必要な表やグラフ、代表値を考える。(5分)	○予想を確かめるために、表やグラフ、代表値など何が必要なのかを考え、それぞれの必要性や意味を振り返らせる。
	(2) 資料を表やグラフに整理したり代表値を求めたりする。(15分)	○必要に応じて電卓を使い、表やグラフに整理したり代表値を求めさせる。
	(3) 予想を確かめ、まとめる。(15分)	○整理したり求めたりしたものを適切に活用して、予想が正しいかどうかを確かめさせる。
		○確かめたことをまとめるさせる。グループ内で意見交換し、見落としていたことや予想したこと以外に分かったことがあれば、そのことについてもまとめ、説明の準備を進めさせる。
4	本時を振り返る。(5分)	○本時に学んだことや授業の感想をまとめ、次時の予告をする。

## 1 本時の授業の様子

展開例1, 2では, いずれも数学的活動を紹介しています。数学的活動は, 実感を伴った理解や思考力・判断力・表現力等の高まりを目指して行われます。展開例2では, 生徒が目的意識を持って主体的に取り組めるように, 生徒の日常生活に基づく興味・関心が高い資料を扱いました。生徒の感想を示します。

- ・これから総合的な学習の時間などで資料をまとめるが, 今回習ったことを生かしていきたい。
- ・いろいろな正解がある問題では, どんなことを書いていいのかわかって難しかった。
- ・思ったこと, 気付いたことなどを発表する機会が多かったので, これに慣れたら楽しかった。
- ・ほとんどの課題が記述式で, 正解がいろいろあるので, 数学は楽しいなと思った。
- ・メジアンやモードは, 最初は何に使うのかわからなかったが, 習っていくうちに分かった。
- ・平均は万能であるわけではないので, すぐに平均を信用しないようにしたい。

## 2 実践を終えて

### (1) 成果

実践に当たっては, 次の4点について工夫し, 学習効果を高めることができました。

- 1 三つの表現様式(図, 言語, 記号)のうち, 本単元では, ヒストグラムなどの図的表現と, 数学的な用語を用いて言葉で伝える言語的表現に重点を置いた。
- 2 説明が苦手な生徒には, 資料の傾向をとらえるポイント(度数折れ線の山の位置, 形, 高さ)や, 「私は〇〇と思います。それは, □□だからです。」の型を示した。
- 3 1単位時間の授業のねらいを明確にし, ワークシートにより効率化を図ったり, あらかじめ整理した表やグラフを用意して, 活用や説明のための時間を確保したりした。
- 4 生徒一人一人が説明し伝え合う機会を確保するため, グループ学習を取り入れた。

### (2) 課題

数学的活動には, 多くの時間が必要となります。1単位時間の授業における数学的活動のねらいが, アの「見いだす活動」, イの「利用する活動」, ウの「説明し伝え合う活動」のどれであるかを明確にして, 単元指導計画に位置付ける必要があります。今回は, 本単元の標準の総授業時数9単位時間に4単位時間を加えて実施しました。追加した4単位時間を, 教科書の内容を深めたり広げたりする2単位時間と, 独自に設定した内容を扱う2単位時間に充てましたが, ねらいを絞って1単位時間ずつの扱いとすることも可能です。

また, 資料を整理する場合は, 作業の効率化を図り, 処理した結果を基に資料の傾向を読み取ることを重点的に指導できるようにコンピュータの適切な利用が課題となっています。宮崎大学の藤井良宜教授が作成したヒストグラム作成のフリーソフトウェアがあるので今後活用していきたいと思います。(URL <http://www.miyazaki-u.ac.jp/~yfujii/histogram/>)

### 実践上の留意点

授業では, 日ごろから結論に至るまでの過程を大切にしたり, 説明が苦手な生徒には具体的な手だてを示したりすることが大切です。グループ学習では, 一斉授業に比べて自分の考えを述べる機会が増え, 表現力を高めるのに効果的です。授業の展開では学び合いを視野に入れ, ルールを決めたり役割を分担したり事前に個人解決の時間を確保することも大切になります。

## 3

### これからの方向性

新しい学習指導要領では、「資料の整理」ように、かつて指導していた指導内容が再び加えられました。しかし、従前の授業展開に新たな工夫が必要になります。新しい数学科の授業スタイルへの転換を図っていくためには、近隣の学校同士等で、数学的活動や言語活動をテーマとして授業を中心とした研修会を実施し、具体的な授業のイメージが持てるようにしていくことが大切です。

これからの方向性として、大切にしたい二つの内容を次に示します。

#### 教材開発

#### 充実した「数学的活動」の設定

数学的活動とは、生徒が目的意識を持って主体的に取り組む数学にかかわりのある様々な営みを意味しています。したがって、「ア 数や図形の性質などを見いだす活動」が行われたとしても、生徒が目的意識を持って主体的に取り組んだものでなければなりません。

ここでは、数学的活動の設定のポイントを4点挙げます。

- 1 誤答しやすい問題を取り上げ「この計算は、正しいだろうか」など揺さぶるような発問にし、正誤の理由を説明し合う。
- 2 多様な解決方法がある問題を取り上げ、「共通点は何だろう。どちらの方法がよいか」など、解決方法を比較、検討し合う。
- 3 問題解決をした後、問題の条件を変えて発展的に考える活動を取り入れる。
- 4 既習の数学を基にして、数や図形の性質を見いだす課題では、生徒が主体的に取り組むことができるように、前提となる指導にも触れる。

#### 言語活動

#### 言語活動の充実

今回の改訂においては各教科等を通じて生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な生徒の言語活動の充実を図ることとしています。

そこで、数学科で言語活動を充実するためのポイントを4点挙げます。

- 1 表現することと解釈することの双方を重視する。
  - 例えば、場面を式に表す活動と式がどんな数量を表しているかを解釈する活動
- 2 表現したり解釈したりする対象を明らかにする。(平成21年度全国学力・学習状況調査より)
  - 見いだした事柄や事実を説明する問題・・・「紋切り遊び・**1**(2)」
  - 事柄を調べる方法や手順を説明する問題・・・「電球蛍光灯のよさ・**3**(3)」
  - 事柄が成り立つ理由を説明する問題
    - 「3段目の数・**2**(2)」 「中点で交わる2つの線分・**4**(1)」 「商品当てゲーム・**5**(2)」
- 3 数学的な表現の方法を身に付けられるようにする。
  - 例えば、用語や記号、図、表、式、グラフを適切に用いること
- 4 言語活動の必要性や働きについて理解できるようにする。
  - 例えば、自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解したりすることが必要な場面を設定すること



## 1 理科授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説理科編（平成20年9月）（以下「解説」という。）では、改訂に当たっての基本的な考え方として「科学に関する基本的概念の一層の定着を図り、科学的な見方や考え方、総合的なものの見方を育成する」「科学的な思考力、表現力の育成を図る」「科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高める」「科学的な体験、自然体験の充実を図る」ことが挙げられています。中学校学習指導要領（平成20年3月）（以下「指導要領」という。）では、理科の目標の中に「科学的に探究する能力の基礎と態度を育てる」こと、各分野の目標の中に「観察、実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てる」ことが示され、科学的に探究する学習活動の一層の充実などが求められています。

そこで、中学校理科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 構造化された内容構成を生かした単元指導計画の作成

「エネルギー」などの科学の基本的な見方や概念を柱として、小学校、中学校、高等学校を通じて内容が構造化されています。解説14ページから、また、高等学校学習指導要領解説理科編（平成21年7月）8ページから図示されている内容構成を踏まえ、各分野間及び各項目間の関連にも十分考慮し、各分野の特徴的な見方や考え方が互いに補い合って育成されるように計画することが大切です。

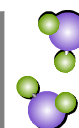
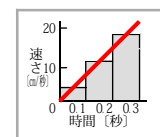
校種	学年	エネルギー
小学校	3	
	4	
	5	
	6	
	1	
	2	
中学校	1	
	2	
	3	
高等学校		物理基礎

### Point 2

#### 観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の充実

科学的に探究する学習活動を充実するためには、十分な観察や実験の時間、課題を解決するために探究する時間などを設けることが必要です。

また、1単位時間の授業では、「問題の把握、仮説の設定、資料の収集、実験による検証、結果の分析や解釈、結論の導出」などの科学的に探究する学習活動について、問題の内容や性質、生徒の発達の段階に応じ、ある部分を重点的に扱ったり、適宜省略したりするといった工夫が必要です。その際、各分野の目標の改訂を踏まえ、特に、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動を充実していくことが大切です。



### Point 3

#### 科学的に探究する学習活動を言語活動で充実

科学的に探究する学習活動を充実するためには、言葉で表現し合い、互いの考えを確認し合ったり、深め合ったりする学習活動を充実することが大切です。例えば、「検証方法を討論しながら観察や実験を計画する」「データを図、表、グラフなどの多様な形式で表す」などの学習活動が考えられます。また、レポートの作成、発表、討論など知識及び技能を活用する学習活動を工夫し、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実することは、思考力の育成や基本的概念の定着を図る上で重要です。



## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

### ◆題材

- ・実践事例1 第1分野「化学変化と質量の保存」(第2学年)
- ・実践事例2 第2分野「動物の仲間」(第2学年)

Point 1 Point 2 Point 3 を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

実践事例1は、化学変化の前後で物質の質量の総和が等しいことを見いだす学習において、既習の学習項目との関連を図りつつ、モデルを用いて実験の結果を解釈し説明する活動を充実させています。この活動を通して、自身が形成している概念を、より適切なものに修正すること、また、原子のモデルと関連付けてみることにより、実験結果から質量保存の法則に一般化することをねらっています。このような学習活動を計画的に設定することにより、「粒子」の概念を着実に形成させ、また、微視的な見方や考え方を養っていくことが大切です。

実践事例2は、動物が幾つかの仲間に分類できることを、分類の観点とともに見いだす学習です。植物を分類した経験を生かし、動物に関する既存の知識を用いて様々な考えを出し合い、主体的に動物を分類していく活動としています。そして、多様な生物の中に共通性を見だし、動物を観察するときの視点を持つことをねらっています。この学習で、生徒は生活体験などからも得ている知識を用い、動物を分類する観点を自信を持って次々に出すことが期待されます。自信を持って考えを表現し合う経験を重ねることは、表現する能力を育成する上でも大切です。

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 実践事例1 項目間の関連を図り、既習事項を活用して基本的概念の形成を図る事例

題材 「化学変化と質量の保存」(全2単位時間：単元「化学変化と原子、分子」の第二次「化学変化と物質の質量」の第1・2時)

##### (1) 指導上のポイント

化学的領域では、科学の基本的な見方や概念の柱として「粒子」が掲げられています。「粒子の保存性」などの下位概念を形成しながら「粒子」の概念形成を図ります。大まかには、小学校で培われてきた物質が粒の集まりという概念を用いて、第1学年の「物質の状態変化」や「水溶液」を粒のモデルで説明させ、第2学年で原子や分子、第3学年でイオンなどを導入し、概念形成を図ります。そして、高等学校では、イオン結合などを導入し、「粒子」から「物質」の概念形成へと進めていきます。

このような概念形成を図るには、各項目間の関連を十分踏まえ、生徒が概念を活用する学習を計画的に設定することが大切です。本実践では、実験結果について、原子のモデルを用いて考察し、その種類と数に着目して解釈しつつ、化学変化の前後で物質の質量の総和が等しいことを見いだすようにしています。


##### (2) 本実践の主な学習活動

本実践は、「化学変化と原子、分子」の単元において、「物質の成り立ち」で分解、原子、分子、化学式などを扱い、「化学変化と物質の質量」で化合、燃焼、化学反応式などを扱った後に行っています。本実践の後には、定比例の法則に関する内容を扱います。

第1時では、理由を含め予想を立て、各班それぞれが、次の3種の化学変化の前後におけ

る物質の総量を測定する実験を行いました。そして、全員で各班の実験結果を基に化学変化の様子と質量の変化とをまとめた後、一人一人が化学反応式を考える活動を行いました。

- $\text{H}_2\text{SO}_4 + \text{Ba}(\text{OH})_2 \rightarrow \text{BaSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O}$  \* 希硫酸と希水酸化バリウム水溶液を混ぜると、中和して硫酸バリウムの白い沈殿が生成
  - $2\text{HCl} + \text{CaCO}_3 \rightarrow \text{CaCl}_2 + \text{H}_2\text{O} + \text{CO}_2$  (閉じた系及び開いた系) \* 石灰石と塩酸を混ぜると二酸化炭素が発生
  - $2\text{Cu} + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{CuO}$  (開いた系) \* 銅の粉末を加熱すると酸化銅が生成
- 次に、第2時の主な学習活動などを示します。

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 化学変化を既習の粒子の保存性の概念と結び付け、自分の言葉で説明することができる。(科学的な思考)</li> <li>• 化学変化は粒子の結合の変化で、質量は保存されることを理解する。(知識・理解)</li> </ul>	
主な学習活動	主な指導・支援	ポイント
1 次の質量の変化について、粒子のモデルを用いて考える。 (A) 「ものが水に溶ける」とき (B) 「状態変化」のとき 2 前時の実験の化学変化を、化学反応式で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">実験結果を基に化学変化の前後での質量について考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理由を考える時間を十分とる。また、理由を的確にモデルで表した生徒の発表と教師の補足により、各自が理由を適切に修正できるようにする。</li> <li>○ 原子のモデルで、質量変化を考えることができるようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Point 1</b></p> <p>既習の学習項目間の関連を図り、物質を構成する粒に着目するようにしています。</p> </div>
3 班ごとに決められた実験の結果について、粒子のモデルを用いて説明し合い、考えをまとめて発表の準備をする。 4 班ごとに、実験結果を粒のモデルを用いて説明(発表)した後、全員で協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 班で話し合う実験の一つとし、考える時間、考えを出し合う時間を十分確保する。また、化学反応式との関連も考えるようにするなど、適宜助言する。</li> <li>○ 班でまとめた図を教材提示装置で映して、原子のモデルの一つ一つを指しながら説明できるようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Point 2</b></p> <p>実験結果を、モデルを用いて解釈し、質量の関係を見いだすようにしています。</p> </div>
5 まとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教材提示装置及びプロジェクタを常設し、第1学年より生徒が繰り返し使用しています。発表を常に肯定的に評価し、座席表を活用して全ての生徒が発表できるようにしています。生徒は機器を使っての発表に慣れています。(図1)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Point 3</b></p> <p>考えるときの視点を与えたり、表現したことを肯定的に評価したりして、考えを説明し合い、確かめ合ったり、深め合ったりする活動を促進しています。</p> </div>

## 2 実践事例2 既習の方法や知識を活用して多様な考えを出し合い、基本的な見方や考え方を育成する事例

題材 「動物の仲間」(全1単位時間: 単元「動物の生活と種類」の第1時)

### (1) 指導上のポイント

生物学的領域では、科学の基本的な見方や概念の柱として「生命」、その下位概念の一つに「生物の多様性と共通性」が掲げられています。生物を多様性と共通性の観点からみる見方や考え方を養う上で、生物を分類する学習は重要であり、生徒の気付きや考えを基に学習を進めることが大切です。本実践では、生徒の主体的な話し合いにより分類のための特徴を挙げ、その妥当性を検討しながら動物を分類していきます。なお、話し合いを中心に学習を進めるに当たっては、目的意識を明確にしておくとともに、科学的な根拠を踏まえ、論理的な思考に基づいて適切な判断を行うよう指導していくことが大切です。

### (2) 本実践の主な学習活動

本実践は、「動物の生活と種類」の単元の第1時に行い、動物の仲間分けを通して動物へ

の興味・関心を高めるとともに、体のつくりや呼吸の仕方などの特徴を基に動物全体を概観することができるようにしました。その上で、動物の生活場所と体のつくりとの関係などを扱い、「動物の体のつくりと働き」の学習へと進めていきます。

次に、主な学習活動などを示します。

目標	・動物を分類する観点を見付け出す。 ・体のつくりと働きなどの特徴と分類の観点を分かりやすく発表する。	(科学的な思考) (技能・表現)
主な学習活動	主な指導・支援	ポイント
1 植物の分類を復習する。 2 本時の目標をつかむ。	○ 植物のつくりやはたらきに着目したことを想起できるようにする。	<b>Point 1</b> 既習の学習項目間の関連を図り、既習の方法を用いて、学習を進めるようにしています。
<b>動物を分類しよう</b>		
3 班ごとに動物の写真カードを2種類に分類し、分類した理由及びグループ名をワークシートに記入する。	○ 興味を持ちやすく、よく知っている動物を取り上げ、分類の観点を見いだしやすくする。また、机間指導し、生徒のつぶやきを取り上げるなどして、多くの分け方が出るようにするとともに、具体的な体のつくりなどの根拠となる理由を挙げることを押さえる。	<b>Point 3</b> 生徒のつぶやきを取り上げたり、表現したことを肯定的に評価したりして、言語活動を促進するよう支援しています。
イカ オオサンショウウオ カエル カニ ガン シャチ テントウムシ トラ ヒト ミジンコ メダカ ワニ	○ 適切な説明や発表態度を促したり、適宜補足したりし、分かりやすい発表となるようにする。また、幅広い発想を肯定的に評価して多くの考えが出るようにするとともに、分類の理由について意見交換し、妥当性を評価できるようにする。	<b>Point 3</b> 科学的な根拠を踏まえた適切な判断を行いながら、互いの考えを確かめ合ったり、深め合ったりする活動を充実しています。
4 分類できた班から、教材提示装置を使って発表し、その後、質疑応答及び意見交換を行い、分類の妥当性を検討する。	○ 早い段階で脊椎動物と無脊椎動物の分類を押さえ、以後は脊椎動物に絞って分類するようにする。なお、意見が出にくい場合は、分け方を提示し、その基準を考えるようにする。 ・発表内容を黒板に整理していく。	
5 更に別の視点から分類できないかを考え、できた班から発表する。(3, 4と同様)	○ 生徒の意見を基に科学用語も示し、分類及びその観点をまとめる。	
・水生、陸生 ・卵生、胎生 ・えら呼吸、肺呼吸 ・変温、恒温 ・体の表面の様子		
6 ノートにまとめる。		

### 3 成果と課題

#### 1 授業実践での様子と成果

図2は実践事例1で使用したワークシートに生徒が記述したものの一部です。質量に関する実験結果の説明について、(A)では、粒のモデルでは表せず、「何も足したり引いたりしていない」としていたものが、粒のモデルに表して「粒の数は変わらない」に変化しています。(C)では、粒に着目はしていますが、モデルがより正確なものに変化しています。表1

(A) うすい硫酸と水酸化バリウム水溶液を混ぜ合わせる。

(C) 銅の粉末を熱して酸素と化合させる。

図2 ワークシートへの記述 [実践事例1]



は実践事例1での感想などの一部です。これらから、他者と考えを交流しながら、既習の原子のモデルを活用して実験結果を説明する活動により、粒子の概念形成や理解が深まっていく様子がうかがえます。

図3は実践事例2で用いたワークシートに各班が記述したものの一部、表2は各班から出された主な動物の分類の観点です。動物カードを2種類に分ける活動は、動物に関する知識を互いに補い合いながら活発になされました。「動物の生活と種類」の大単元を終えた後の感想で、印象に残った学びとして「動物の分類」を挙げる生徒が多かったこと、「どの種類にどんな動物がいるのか調べたい」などの記述から、学習内容とともに主体的に考え表現したことが印象を強くしたこと、また、動物への関心を高めたことなどがうかがえます。

これらの実践を通じて、生徒一人一人が、科学に関する基本的な概念を着実に形成していくためには、考えを表現し交流する活動を適切に設定していくことが大切であることが分かります。

表1 感想など [実践事例1]

他の班の発表を聞いて考えたり、思ったこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルで表したものは、それぞれ書いた人や班によって違うから、新しいことを見付けることができたりして楽しく思うこともあった。</li> <li>みんな上手に絵で説明が分かりやすかった。問題は難しかったけど他の班の人の意見を聞いてみると、とても分かりやすく納得できた。</li> </ul>
この実験(授業)を通しての感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>僕は(A)の問題を担当しました。モデルなどを使用して説明しなさいと聞いても、最初はしようと思ったけど、班の人たちと協力し問題に取り組み、その結果問題が解けて発表できたのでよかったです。</li> <li>見た目には全然違うのに、できた物を合わせると最初の重さに戻るのはすごいなあと思った。でも、結局原子のきまりにある、ほかの原子に変わったり、減ったり増えたりしないというのが、ここにも出てきたのはびっくりしました。</li> </ul>

分類基準:羽の有無	生活の場所
・有 → 5, 7	・水中 → 1, 2, 3, 4, 6, 10, 11, 12
・無 → それ以外	・陸上 → 5, 7, 8, 9
言葉も話す	歯の有無
話す → 9	・有 → 1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 12
話さない → それ以外	・無 → 3, 5, 10, 11

図3 ワークシートへの記述 [実践事例2]

表2 主な動物の分類の観点(妥当性を検討する前) [実践事例2]

・地上生活か水中生活か	・卵を産むかどうか
・飛ぶか飛ばないか	・毛があるかないか
・肉食かそうでないか	・話せるかどうか
・会えるか会えないか	・歯があるかないか

## 2 実践の課題

実践事例1では、実験結果を原子のモデルで説明できることを理解する一方、「それでも難しい」との感想を持つ生徒もあり、原子のモデルを用いて考察し表現し合って考えを深めていく活動を繰り返し行ったり、球を用いるなどモデルを工夫したりすることが大切です。

実践事例2では、動物に関する知識を互いに補い合いながら学習を進めることができたものの、一人一人が各動物に関して有している知識には差がありました。以後の授業で補うものの、生徒が話し合いを進める際、取り上げた動物に関する資料を入手できるようにし、事実に基づいて分類できるようにすることが大切です。

また、考えを表現し交流する活動を充実していくためには、原子など目に見えないものを対象として考えたり、分類の観点の妥当性の視点など生徒だけでは考えにくい内容を扱ったりする場合、教師が適切に指導、支援することが大切です。

### 実践上の留意点

- 図4は、実践事例1で保護眼鏡をかけて実験している様子です。解説の関係箇所に「…実験では、保護眼鏡の着用による安全性の確保…」と示されています。事故の防止、薬品の管理や廃棄物の処理についての一層の配慮が必要です。
- 平成22年度から、「化学変化と原子・分子」では、「化学変化」に「酸化と還元」「化学変化と熱」が加わります。また、「動物の生活と種類」では、「生物と細胞」「無脊椎動物の仲間」「生物の変遷と進化」が加わります。これらの追加された内容も踏まえ、単元の指導計画を作成し、段階的に概念を形成していくようにすることが大切です。



図4 実験の様子 [実践事例1]

## 3 これからの方向性

今回の改訂で、国際的な通用性、内容の系統性の確保などの観点から内容の改善がなされ、イオン、遺伝の規則性と遺伝子など、新たな内容が追加され、授業時数も増加します。授業時数の増加で求められているのは、「科学に関する基本的概念の一層の定着を図る」「観察、実験の結果を分析して解釈するなどの学習活動を一層重視することで科学的な思考力や表現力の育成を図る」「日常生活や社会との関連を重視し、科学的な体験、自然体験の充実を図る」ことです。3年間を見通した指導計画を作成し、これらの目標を達成していくことが大切です。

これからの理科の在り方を考える上で、大切にしたいことの幾つかを次に示します。

### 教材開発

#### 新しい内容についての教材及び指導法の開発

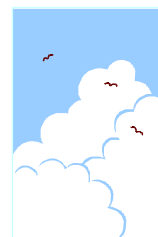
指導要領や解説の表記で、「扱う」は観察や実験などを通して考えさせるなどしっかり扱うことで、「触れる」は演示したり、主体の実験の補助的な実験をさせたりすることと違いがあります。このほか「中心に扱う」「理解する」「知る」「認識する」などの表記があり、これらの表記に留意し、取扱いを慎重に読み取って理解しておくことが大切です。その上で、新たに追加された内容について、教材や指導法を開発するとともに、観察、実験機器を計画的に整備する必要があります。

### 自然体験

#### 科学的な体験や自然体験の充実

観察、実験の充実はもちろんのこと、次のような活動を適宜行ったり、連携を図ったりし、科学的な体験や自然体験を充実していくことが大切です。

- 原理や法則の理解を深めるためのものづくり  
「電流とその利用」でのモーター、「化学変化と原子・分子」でのカイロなど
- 継続的な観察や季節を変えての定点観測  
ウニの発生の様子の観察、前線通過時や季節ごとの気象観測など
- 博物館や科学学習センターなどとの連携  
プラネタリウムなどの施設の活用、標本や資料の借り受けなど



### 社会との関連

#### 日常生活や社会との関連

科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていること、理科で学習することが職業など関係していることにも触れ、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高めることが大切です。

### 指導計画

#### 創意工夫を生かした効果的な指導計画の作成

科学的に探究する能力の基礎と態度を育成していくためには、3年間を見通して、指導計画の中に重点とする科学的に探究する学習活動を位置付けておくことが大切です。また、例えば、第2学年の早期に「気象観測」を学習し、季節ごとや前線の通過時の気象を観測し、その記録に基づいて「天気の変化」「日本の気象」を学習するなど、各学年で取り扱う項目の順序は規定されていないことを踏まえ、内容の系統性に配慮した上で指導計画を工夫することが大切です。さらには、環境教育の充実も求められており、他の教科・領域との関連を図る必要もあります。

指導要領を踏まえた実践を行い、評価し、指導計画を改善していくサイクルを確立していくことが大切です。





## 1 音楽科授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説音楽編（平成20年9月）では、目標について、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して学習が行われることを前提とし、生活を明るく豊かにするための音楽を愛好する心情を育てること、音楽に対する感性を豊かにすること、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすこと、人間と音と音楽とのかかわりとして音楽文化についての理解を深めること、これらが総合的に作用し合い豊かな情操を養うことによって構成されている」と示されています。つまり、音楽科の目標を実現していくためには、特定の活動領域に偏ることなく、中学校3年間を通して、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各活動が授業の中で展開されていくことが重要になります。

そこで、中学校音楽科の授業づくりにおいて、大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 3年間を見通した年間指導計画の作成

学校の教育課程における音楽科として、小学校からの接続を意識し、中学校3年間を見通して生徒に身に付けさせたい力を、授業の中でどのように実現していくのか、他の教科や学校行事などと、どのように関連付けていくのか、生徒や学校、地域の実態を生かし、具体的な学校独自の全体計画を立案する必要があります。

年間指導計画は、中学校学習指導要領音楽科の目標やそれぞれの学年目標を達成するために、時期、学習内容、題材、目標、教材、指導時間などを具体的に示すことが大切です。また、関連する評価、学校行事、特別活動、他の教科、道徳などの項目を明記すると全容が見えます。

小学校と中学校の義務教育9年間ではぐくむ資質や能力が、学習指導要領音楽科の各事項に貫かれて示されています。また、中学校学習指導要領音楽科においては、第2学年と第3学年は学年の目標及び内容が一つに示されているため、2年間を見通しての題材配列や系統性を検討する必要があります。中学校3年間全体を見通して、中学校の音楽科で身に付けたい力の実現可能な年間指導計画を作成することが大切です。

### Point 2

#### 音楽活動の軸は〔共通事項〕

教師は、音楽活動を通して、生徒が音や音楽を聴いたり表現したりしようとする能力に働きかけて、生徒の様々な可能性を引き出し、育て、高めていくことが必要です。そのためには、生徒が音や音楽を聴き取り、そのよさや美しさを感じ取って、思いや意図を持って、生き生きと表現したり味わって聴いたりする活動を組み立てることが大切です。また、教材選択及び教材研究を進める際、各活動の指導事項だけではなく、〔共通事項〕に着目することが大切です。

〔共通事項〕に示されている要素やそれらの働きを表す用語や記号等を、表現と鑑賞の各活動の支えとして、生徒が確実に3年間を通じて学習できるよう年間指導計画に位置付ける必要があります。題材のねらいや指導する事項、教材などの関連の中で、〔共通事項〕に関して題材間の関連が図られたり、〔共通事項〕をより所として、今まで以上に歌唱、器楽、鑑賞の活動との関連を図ったりした創作の活動が求められます。

## 2

## 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆実践事例1 題材名「郷土の音楽っていいね」

◆実践事例2 題材名「曲にふさわしい表現を工夫しよう」

Point 2

を生かした授業

### 1

### 実践のねらい

実践事例1 [共通事項]を活動の支えとして「我が国の音楽」の授業を工夫する。

Point 2

我が国の伝統的な歌唱のうち、民謡を取り上げ、民謡や声の特徴を感じ取らせる工夫を紹介します。また、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、民謡の特徴を押さえ、我が国の音楽のよさや美しさ、面白さを味わう中で、言葉で説明するなどの活動を展開します。

実践事例2 [共通事項]を変化させ、生徒の思いや意図を実現する。

Point 2

生徒が[共通事項]にある要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る活動と、音楽の構造を意識しながら曲想とのかかわりを感じ取って聴いたり、表現したりする活動を繰り返す授業を組み立てて、生徒が音楽の味わいや表現を深めていく学習活動を展開します。感性を高め、思考・判断し、表現する一連のプロセスを重視した授業です。生徒が表現したい思いや意図に向かって、要素の変化を試行錯誤し、豊かな音楽表現の工夫を目指します。

## 2

## 学習指導の実際

### 1 実践事例1

授業展開例として、学習指導案を表1に、「学習カード」を図1に示します。

第1学年の実践

1 題材名「郷土の音楽っていいね」(全2単位時間)

2 指導する事項

[第1学年] 内容 B鑑賞(1)

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。

[共通事項] (1)

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受すること。

3 題材の目標

○音楽の多様性を感じ取る。

○音楽のよさや美しさを味わう。

○要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。

4 題材設定の理由

郷土の音楽に対する理解を一層深め、我が国の音楽文化を尊重する態度を養うことをねらいた。道徳教育の全体計画との関連に配慮し、相互に効果を高め合うようにしたい。

5 道徳教育との関連

内容「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること」

項目 (8) 地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

(9) 日本人としての自覚を持って国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。



6 教材及び教材選択の理由

(1)教材

「ソーラン節」(北海道)、「花笠音頭」(山形)、「備前ろくろ歌」(岡山)、「黒田節」(福岡)

(2)教材選択の理由

郷土の音楽の中から、生徒のだれにでも聴き取ることができる曲を選択した。



表1 学習指導案(本時案)

	主な学習活動と内容	教師の働きかけ
聴く 話し合う 体験する 言葉に表す	<p>「ソーラン節」と「黒田節」の特徴をとらえる。</p> <p>○「ソーラン節」と「黒田節」を鑑賞し、共通事項を手がかりに、音楽の特徴をとらえる。</p> <p><b>Point 2</b> 〔共通事項〕を手がかりに、気付いたことを学習カード(図1)に記入したりグループで感じたことや気付いたことを発表したりする。</p> <p>○「ソーラン節」と「黒田節」を体験的に歌い、音楽の特徴を理解する。 ・気付いたことを学習カードに記入する。</p> <p>○「ソーラン節」と「黒田節」のそれぞれを再度鑑賞し、特徴をまとめる。 ・特徴を学習カードに記入する。</p>	<p>○「ソーラン節」「黒田節」について、説明しながら鑑賞させ、感じたことや気付いたことを発表させる。 ・印象や雰囲気など感じたことや思ったことを記入させたり、発表させたりする。</p> <p>○「ソーラン節」は囃子<sup>はやし</sup>ことばを全員でのかけ声としたり、教師のみにしたりして、独唱とかけ声の体験から、曲想を味わうことができるようにする。 ・「黒田節」は鑑賞教材と教師の範唱の基に、生徒が体験するようにする。</p>



**民謡の特徴をまとめてみよう**

年 組 番 (      )

★あなたは、どんなことに気づきましたか★

ソーラン節	黒田節
-------	-----

★まわりの友だちは、どんなことに気づきましたか★

ソーラン節	黒田節
-------	-----

★民謡をうたった感じはどうですか。上の□の中のことを参考に書いてみよう★

ソーラン節	黒田節
-------	-----

★もう一度、民謡を聴いて、総合的に民謡の特徴を書いてみましょう★

図1 「学習カード」

2 実践事例2

授業展開例として、学習指導案を表2に示します。

第2学年の実践

1 題材名「曲にふさわしい表現を工夫しよう」(全4単位時間)

2 指導する事項

[第2学年及び第3学年] 内容 A表現(2)

ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。

イ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

[第2学年及び第3学年] 内容 B鑑賞(1)

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。

イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。

〔共通事項〕

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

3 題材の目標

- 曲想を味わい、表現を工夫している。
- 基礎的な奏法を生かして演奏している。
- 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解している。
- 旋律や音色、響きなどが醸し出す楽曲全体の雰囲気や美しさを味わいながら聴いている。



4 題材設定の理由

リコーダーの持つ響きの豊かさに気付き、音楽の多様性を体験する。楽曲を演奏する際に、声による楽曲の演奏を鑑賞することで、音楽のよさや美しさに気付いたり味わったりし、〔共通事項〕で示されている音楽を形づくっている要素に着目した表現の工夫に迫る。「本題材のねらい」は、要素の変化などをグループで焦点化し、グループ内の考えや思いをアルトリコーダーの各声部の重なりを生かし音楽を演奏することを目指す。

Point 2

5 題材の指導計画

第一次 楽曲の理解と鑑賞（2単位時間）

第二次 声部の役割と全体の響き（2単位時間）

6 教材及び教材選択の理由

(1) 教材

「アメージング グレース」


(2) 教材選択の理由

生徒が関心を持つことができ、生徒の表現と鑑賞の活動に連携を図ることができる内容の楽曲を選曲した。



表2 学習指導案（本時案）

	主な学習活動と内容	教師の働きかけ
確認 目設定	<p>第二次 音楽を形づくっている要素を変化させて、表現を工夫しよう</p> <p>○グループ内で声部を分担し、合わせて演奏する。 ・楽譜どおりに演奏できることを確認する。</p> <p>○音楽を形づくっている要素の中から幾つかに着目し、要素を変化させ、表現の工夫をする。 ・「学習カード」にグループの目標や意見をまとめる。(図2)(図3)</p>	<p>○グループ内の役割は固定する。</p> <p>Point 2 音楽を形づくっている要素である音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱等に注目できるようにする。</p>
	<p>工夫する</p> <p>○グループで要素の変化を確認しながら、望ましい表現を求め、工夫しながら練習する。(図4)</p>	<p>○生徒からの説明だけでなく、教師からも指摘し、変化を全員で共有させる。 ・演奏から、音楽を比較聴取できるようにする。</p>
聴き合う	<p>図2 意見をまとめる生徒</p>	<p>図3 目標を書く生徒</p>
	<p>図4 表現を工夫する生徒</p>	<p>図5 グループ発表する生徒</p>
	○互いに発表し合い、他のグループの演奏を聴い	

<b>発展</b>	<p>て、変化している要素を見付ける。(図5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫しているところが分かるように演奏する。</li> </ul> <p>○他のグループの工夫から、必要に応じて、自分たちのグループの表現を更に工夫させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習カード」に改善点をまとめる。</li> </ul>	
-----------	--	---



## 成果と課題

### 1 本時の授業の様子

#### (1) 実践事例 1

生徒が音楽を形づくっている要素と関連させながら、コブシ、囃子ことば、楽器の音色など、民謡の特徴をまとめることができ、グループでほぼ全員が曲の構成をとらえることができたことが成果です。グループ活動で互いの気付きを出し合うことで、主体的な活動になったと言えます。違う二つの民謡の一節を実際に歌うことで、生徒は生き生きと民謡を楽しむことができ、受け身であった鑑賞のスタイルから、生徒が主体的に学ぶ鑑賞の活動へと転換することができました。

#### (2) 実践事例 2

表現を工夫するために、楽曲の演奏を鑑賞したことは、楽曲の分析や理解、表現を工夫することにつながり、音楽の多様性に気付くことができたと言えます。表現の工夫する過程で、生徒は新たな価値観を持って取り組むことができ、音楽のよさや美しさを体験することができたことが成果です。

生徒の感想に「曲にふさわしい速度を考えると、最終的に自分たちの演奏にふさわしい速度になった」「表現するイメージを複数思い浮かべると、その曲に合った表現の工夫ができ、演奏も楽しくできた」「歌うように伸びやかに表現する、という具体的な目標を持つことで、自分たちらしさを表現できた」とあるように、音楽を形づくっている要素に着目することで、生徒が音楽に関心を持ち、楽曲の特徴や音楽の美しさを表現する力をはぐくむことができました。

### 2 実践を終えて

どちらの実践も、各活動と〔共通事項〕を関連させて学習活動を進めましたが、指導のねらいやねらいを達成させるための手だてを明確にする必要性を強く感じました。〔共通事項〕に示されている要素すべてを関連させるのではなく、指導のねらいに応じて幾つかの要素に絞り、取り扱うことが効果的であると考えます。

また、生徒が感じ取った曲想を大切にしたり、自分なりのイメージを持って楽曲にふさわしい表現の工夫をしたり、楽曲やその音楽の背景となる文化などに注目することが、音楽を表現する技能を身に付けることにつながると考えます。表現と鑑賞の領域を関連させながら、〔共通事項〕を手がかりに、生徒が表現したい思いや意図を持つことが大切です。

#### 実践上の留意点

音楽活動は、音によるコミュニケーションを基盤とし、独自の特徴を持っています。音楽活動を充実させるためには、生徒が抱いた音や音楽に対するイメージ、生徒の思いや意図を音楽に関する言葉を用いて、互いに伝え合う活動が有効です。周りの人のイメージ、思いや意図を理解することで、自分のイメージを豊かに広げることができます。

## 8

### これからの方向性

〔共通事項〕に示された音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出す曲想を感じ取って、思いや意図を持って自分なりに曲想に合った表現を工夫するなど、生徒が自らの感性や創造性を発揮しながら、自分にとって価値ある新しい表現をつくり出す授業づくりをすることが大切です。年間指導計画、学習指導案を作成するに当たって、表現及び鑑賞の各活動における指導事項とともに〔共通事項〕を明確にしておくことが大切です。楽しい音楽活動を実現するために、その授業づくりのポイントを次に示します。

#### 表 現

#### 楽しい音楽活動を実現するための工夫

##### ○〔共通事項〕を位置付けた活動を組み立てる

教師は活動を通して、生徒にどのような力を身に付けさせたいのか明確にする必要があります。技能習得のための訓練的な活動にならないよう、生徒の表現したい気持ちや意欲を引き出し、生徒が音や音楽から音楽のよさや美しさを感じ取って、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりすることのできる活動を組み立てることが大切です。また、生徒に表現及び鑑賞の各活動に示された事項を指導する際、〔共通事項〕は表現及び鑑賞の各活動と常に関連させて指導したり、生徒が学習活動をしたりすることが大切です。

##### ○生徒の思いや意図を実現させ、喜びを体験させる

声部の役割や全体の響きを生徒自身が感じ取って、自分なりの表現を工夫することが大切です。また、自分の声部の役割だけでなく、他の声部の役割や表現の工夫を生徒同士が共有する活動を進めていくことが大切です。

活動では、生徒が思いや意図を持つことが大切です。それは、音楽を聴いて、音楽のよさや美しさ、面白さを生徒が自分なりに感じ取り、それを言葉に表したり、音楽で伝え合ったりすることで自分の表現したいイメージが明確になるからです。そのとき生徒は、表現する意欲が高まり「このように音楽を表現してみたい」という自分の思いや意図を持ちます。指導者は、生徒にそのような思いや意図を実現させるために、自ら考え、判断し、試行錯誤しながら主体的な表現活動を進めることが大切です。

#### 鑑 賞

#### 主体的で創造的な鑑賞活動の展開

鑑賞活動では、音楽のよさや美しさについて、例えば、その音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなどを手がかりに、言葉で表すなどして、生徒一人一人が能動的かつ主体的に音楽と向き合う場面を設定することが大切です。

単に感想を書いたり、発表したりする活動ではなく、感じ取ったり理解したりしたことを踏まえ、生徒自身の音楽に対する価値を確認しながら活動することが大切です。

また、考えを述べさせたり批評文を書かせたりすることがねらいとならないよう留意したいものです。





## 1 美術科授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説美術編（平成20年9月）では、基本的な改訂の方針として「育成する資質や能力の明確化と共通事項の新設」「生活を豊かにする美術の働きの実感的理解」「鑑賞の指導の重視と言語活動の充実」「我が国の美術文化の学習の充実」が挙げられています。

そこで、これからの美術科の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 〔共通事項〕を適切に位置付けた指導計画の作成

「A表現」及び「B鑑賞」の各活動において共通に必要な能力が、新たに〔共通事項〕として示され、すべての学習活動において共通に指導されるようになりました。指導事項は、

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
- イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

であり、感じ取ったりイメージしたりするための視点や指導の手だてになるものです。

指導計画の作成に当たっては、これまで扱ってきた題材を、「発想や構想」「創造的な技能」「鑑賞の能力」と〔共通事項〕の視点から見直し、「A表現」及び「B鑑賞」のそれぞれの指導事項において〔共通事項〕を適切に位置付け、題材において育成する資質や能力を明確にして指導することが必要です。

### Point 2

#### 我が国の美術文化に関する学習の充実

教育基本法の改正に伴い、中学校美術の目標では、「美術文化についての理解を深め」の記述が加えられました。具体的には、美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動の重視や我が国の美術や文化に関する指導の一層の充実が求められるようになります。美術文化の学習では、過去の文化遺産としての美術作品などを鑑賞することが重要ですが、身近な生活や地域にある日用品、美術作品、建造物などから共通に見られる表現の特質などに気付かせ、現代社会の中で身に付けた価値観などを生かして過去の作品を理解し、伝統や文化に対する理解を深めるなどの指導が大切です。

### Point 3

#### 作品などに対する思いや考えなどを説明し合う活動の充実

中学校美術科の鑑賞の活動において、造形的な視点を豊かに持って対象をとらえるためには、対象から感じ取ったことを言葉で考えさせ整理させることも重要です。なぜなら、言葉にすることにより、それまでは漠然と見ていたことが整理され、美しさの要素が明確になるからです。さらに、言葉を使って他者と意見を交流することにより、自分一人では気付かなかった価値などに気付くことができるようになります。このように、対象のよさや美しさ、作者の表現意図や工夫などを豊かに感じ取らせ、考えさせ、味わわせるためには、造形に関する言葉を豊かにし、言葉で語り合ったり、記述したりする活動は有効な方法と言えます。

## 2

## 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

### ◆題材名

- 実践事例1 「立体による自己の探求」  
(第3学年) A表現(1)ア, イ (3)ア, B鑑賞(1)ア  
Point 1 Point 3 を生かした授業づくり
- 実践事例2 「四季をイメージしたオリジナル和菓子を作ろう」  
(第2学年) A表現(2)ア, イ, ウ (3)ア, イ, B鑑賞(1)ア, イ, ウ  
Point 2 Point 3 を生かした授業づくり

## 1

### 実践のねらい

実践事例1は、平成20年告示の中学校学習指導要領で新たに設けられた〔共通事項〕に着目し、形や色彩、材料などの造形要素や対象のイメージを介して思考、判断し、自分なりの意味や価値をつくりだす生徒の育成をねらいとして取り組んだ実践事例です。ここでは、題材のねらいや単元構想に〔共通事項〕を明確に位置付け、形や色彩、材料などの造形要素や対象のイメージなどの活用を意識しながら表現や鑑賞の学習活動が展開されています。

実践事例2は、教育基本法の改正に伴い中学校学習指導要領の目標や内容項目に新たに加わった美術文化についての学習に取り組んだ実践事例です。生徒がふだん身近に感じているもの、また、地域の特性を生かしたものの中から和菓子を取り上げ、日本人が大切にしてきた美意識や作品に込められた作者の思い、デザインの重要性などについて、鑑賞と表現の学習活動を関連付けながら展開されています。

## 2

### 学習指導の実際

実践事例1 育成する力を明確にした実践事例 Point 1 Point 3

題材名 「立体による自己の探求」

第3学年 A表現(1)ア, イ (3)ア, B鑑賞(1)ア

#### 1 学習の目標

4観点の中に〔共通事項〕ア, イの指導事項をゴシック体で示しています。〔共通事項〕と学習目標との関係がよく分かります。 Point 1



生徒作品「Music of Life」

- 立体により自己を追求する表現に関心を持ち、意欲的に表現や鑑賞に取り組み、その喜びを味わおうとする。 (美術への関心・意欲・態度)
- 感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などを基に表したい世界を考え、想像力を働かせて発想する。形や色彩、材料などの感情効果を生かしながら、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練る。 (発想や構想の能力)
- 制作している作品のイメージをとらえ、形や色彩、材料などの効果を生かしながら、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って表現する。 (創造的な技能)
- 作品全体のイメージや、形や色彩、材料などの効果をとらえながら造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わう。 (鑑賞の能力)

学習活動に〔共通事項〕を具体的な言葉で位置付け、明記しておきましょう。 **Point 1**

## 2 指導計画（全12単位時間）

時数	学習のねらい	学習活動 ※ ゴシック体は共通事項との関連
導入 1時間	○立体により自己を追求し表現することに関心や意欲を持つ。 <b>関</b> ○表現に込められた想いや表現の工夫、よさや美しさを感じ取る。 B鑑賞(1)ア <b>鑑</b>	1 自己の考えや心の世界を主題にした絵画や写真を鑑賞し、表現による印象の違いや多様な表現の可能性に気付く。 <b>関 鑑</b>
展開 10時間	○文章などにより自己の思いや考え、大切にしていること、夢などを整理し、主題を発想する。 A表現(1)ア <b>発</b> ○主題を基に、想像力を働かせ、構想を練る。 A表現(1)イ <b>発</b> <b>具体的な指導事項との関係を表示し、意識しながら指導します。</b>	2 ウェビングを使って、自分に関係の深い「人」「もの」「時」「場所」などに対する思いや願いを言葉を使って整理し、主題を生み出す(図1)。 <b>発</b> 3 形や色彩、材料などの感情効果を生かしながら、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え創造的な構成を工夫し、アイデアスケッチを描いたり、紙粘土のミニチュア試作で紙上ではイメージしにくい配置などを考えたりしながら構想を練る。 <b>発</b> 4 制作している作品のイメージをとらえ、形や色彩、材料などの効果を生かしながら、自分の意図に合う表現方法を工夫するなどして、制作の順序などを総合的に考えながら表現する。 <b>技</b>
まとめ 1時間	○他者の作品を鑑賞し、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、幅広く味わう。 B鑑賞(1)ア <b>鑑</b>	5 作品全体のイメージや、形や色彩、材料などの効果をとらえながら、 <u>作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合う</u> などして見方を深め、幅広く味わう。 <b>鑑</b> <b>自分なりの意味や価値を作り出す大切な時間です。批評で終わるのでなく、自分にどんな見方や感じ方が広がったかを気付かせます。</b> <b>Point 3</b>



図1 ウェビング

## 実践事例2 我が国の美術文化に焦点を当てた実践事例

題材名 「四季をイメージしたオリジナル和菓子を作ろう！」

(第2学年) A表現(2)ア, ウ (3)ア, イ B鑑賞(1)ア, イ, ウ

**Point 2**

**Point 3**


### 1 本題材でとらえさせたい日本美術のよさや特徴と日本美術を取り巻く課題

日本人は四季の移ろいを大切にし、季節の特徴や雰囲気作品や製品に取り入れてきました。しかし、食生活や居住空間など、日本人が大事にしてきたよさや美しさが失われてきているものも少なくありません。絵画や彫刻などの純粋美術だけでなく、身近な生活や行事の中にも、まだまだ日本人の美意識が感じられるものが多くあります。本題材では、地域の和菓子製造業の企業と協力することで、本物の和菓子の間近で鑑賞でき、製造工程も見ることができます。身近なものが日本文化に関する題材や資料として提示されるので、生徒の興味や関心を高くすることができると考えました。



生徒作品「雪どけ」

## 2 指導計画（全単位6時間）

時数	学習活動	指導上の留意点
鑑賞 1時間	<p>「お届け！和みのイメージ」 (7) 商品のイメージを知る。 (4) 和菓子の四季を読む。</p> <p>(ウ) 和菓子の製造ビデオを見る。</p> <p>(エ) 本物の上和菓子を鑑賞し、表現されている四季を考え、工夫点に気付く。</p> <p>形や色彩、香りなどの感情効果に注目し、どうしてそう思ったか根拠を発表し合う。 <b>Point 3</b></p> <p>(オ) 和菓子のよさや特徴をワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲料水のパックの味（銘柄）を隠した写真を示し、味当てクイズを出しウォームアップする。</li> <li>各和菓子が四季の違いをどのように表現しているか見付けさせる。</li> <li>上生菓子製造工程のビデオ鑑賞で、いろいろな和菓子の作り方を示す。</li> <li>本物の上生菓子を鑑賞させ、興味を惹く（図2）。</li> <li>和菓子の持つ造形的な美しさだけでなく、そのイメージを読み取ることで日本人が大切にしてきた美意識に気付かせる。 <b>Point 2</b></li> <li>四季や行事を大切にする日本の伝統のすばらしさを色や形を通してまとめさせる。</li> </ul>  <p>図2 和菓子の鑑賞</p>
鑑賞・表現 1時間	<p>「敷島堂さんがやって来た！」 (7) 上生菓子の製造工程を知る。</p> <p>(イ) 本物の餡を使って実習し、自分の作った生菓子を食す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色餡や木柀を数種類準備し、色と形の美しさに生徒が着目できるようにする。</li> <li>職人の方に説明や実演を依頼し、和菓子作りの工程や職人の方の和菓子に込める思いが伝わりやすくする。</li> <li>比較的簡単で上手に作成できる型作りを生徒に実践させ、最後は味を楽しませる。</li> </ul> <p>職人の熟達した技を直接見たり、製造者の思いを聞いたりして、日本美術のよさや特徴を体感させる。 <b>Point 2</b></p>
表現・鑑賞 4時間	<p>「オリジナル和菓子を作ろう」</p> <p>第1時 四季に応じた和菓子を考える。</p> <p>第2時 アイデアを決定し、カラー粘土の餡を作成する。</p> <p>第3時 粘土で和菓子を成形する。</p> <p>第4時 商品紹介カードを作成し、相互鑑賞をする。</p> <p>主題を基に「和」を感じさせるような商品名やセールスポイントなどを考え紹介カードを作らせる。 <b>Point 2</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四季の和菓子を考えさせ、一つに絞りながら深めさせる。</li> <li>日本の四季や自然物などのイメージを基に、単純化したり象徴的に表したりして発想や構想をさせる。 [図]</li> <li>イメージを表す色を粘土に練り込んで生地を作成させ、粒餡も作成させる。本物を作っている感覚にさせるために、実際に和菓子を作る工程に似た作業にする。</li> <li>自分の表現意図に合う表現方法を工夫し、飾りや模様といった細部にもこだわりを持たせ作成させる。 [図]</li> <li>作成した和菓子の四季や味のイメージを、和紙を使って表現させ、和菓子のケースも準備し、本格的な和菓子に見せる。また、自分の作ったオリジナル和菓子を周囲にアピールさせる。</li> <li>客を迎えるおもてなしの心にも触れ、まとめさせる。</li> </ul>

## 3

## 成果と課題

## 1 本時の授業の様子

実践事例1では、新設された〔共通事項〕を学習の目標や指導計画に明確に位置付けることによって、生徒は形や色彩、材料などの働きを理解したり、イメージをとらえたりしながら主体的に思考、判断し、自分なりの意味をつくりだしたことに喜びや価値を実感させることができました。授業のアンケートにも、「もっと表現を追求していきたい」「今後は一つの作品をいろいろな角度から見たい」「上手かどうかで作品を判断するのではなく、どんな思いがこの作品に込められているかを考えるようになった」などの記述が見られました。



生徒作品「心の壁」



生徒作品「大切な幼なじみ」

実践事例2では、製造者から実際に作り方や和菓子に宿る日本の美意識について話を聞かせていただいたり、生徒たちのオリジナル和菓子をこの和菓子店に展示し、社長や店長、製造スタッフの方々に審査、表彰していただいたりしました。その後、和菓子店の商品に生徒が考えたアイデアが影響を与えるなど、今回の授業が社会ともつながる結果になりました。11月に行った生徒の意識アンケートの結果は、4月当初より日本美術に「興味を持った」「まあ興味を持った」生徒は合わせて94%でした。この結果からも、純粋美術はもちろん、身近なものや大衆美術と呼ばれるサブカルチャー等を教材に取り上げていくことで、日本美術のよさを生徒は、肌で感じたのではないかと考えます。

生徒作品  
「季節の変わりごち」生徒作品  
「さわやか日和」

## 2 実践を終えて

学習のねらいを明確に持ち指導するために〔共通事項〕は大切な役割を果たします。〔共通事項〕の視点で題材を見直すことは、具体的な学習内容を教師が意識して授業づくりを行うことにつながるとともに、題材の評価規準を考える上でも大切な視点となるものです。教師の指導や評価の言葉が重要となります。「よくかけているね」という漠然とした言葉から、形や色彩、イメージなどに着目し、「君の作品の○色と○色の組合せが○○な効果を生んでいるね」のように求めている生徒の具体の姿で声かけをしていくことが大切です。

また、効果的な提示資料の選択のために、教師が常に生活の中で教材を探す姿勢を大切に、積極的な題材研究を行うことが求められます。

## 実践上の留意点

実践事例1では、3年間の美術の学習の集大成という位置付けで授業が行われました。主題を深め、中学3年生の発達段階に即した題材の展開や多様な表現方法の選択等ができるような指導を心がけるようにしましょう。

実践事例2では、日本美術のよさや特徴を印象深く感じさせるために、身近なものを題材にしました。本物を鑑賞したり、地域の伝統工芸や企業と連携したりすることで、身近なものから日本の美意識を肌で感じ取り興味も高まります。日々の生活の中で日本の美意識を発見する面白さを感じることができれば、きっと日本の美の深さをこれからも生活の中で感じ、楽しみ続け、後世に伝えていくことができるでしょう。

### 3 これからの方向性

思春期にある中学生は、批判的にものを見たり、自分の中で価値を再構築していく時期でもあります。このような時期に、美術の表現や鑑賞の授業の中で自分をしっかり見つめたり、よいもの、美しいものにしっかり触れ、自分の中に自分なりの価値観を形成したりしていくことは、これからの美術の授業づくりを考えていく上でとても大切なことだと思います。各領域の指導に関して大切にしておきたいことを次に示します。

#### A 表現

#### 明確なねらいと多様な表現方法の選択

生徒にとっては、一般的に作品を描いたり作ったりすることが表現活動の目的になりますが、教師はその活動を通してどのような資質や能力を身に付けさせるかを明確にし、常に意識しながら指導することが重要です。新学習指導要領で整理された「A表現」の「発想や構想の能力」と「創造的な技能」や、新設された〔共通事項〕の内容を授業レベルで理解することが指導の改善につながります。年間指導計画や学習指導案に具体的に位置付け、アンダーラインや字体の強調などで示しておきましょう。また、題材名に続けて「A表現(1)ア, イ (3)ア B鑑賞(1)ア」のように記載し、その題材で押さえるべきねらいを確認して指導に当たるようにしましょう。

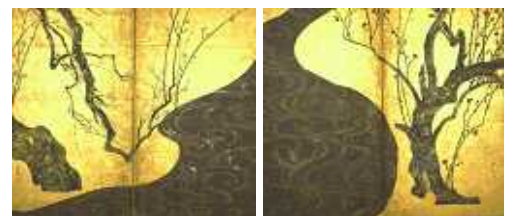
また、新学習指導要領では、スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどは、生徒の学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、生徒自身が自分の表現意図に合う表現形式や表現方法などを選択し創意工夫して表現できるよう配慮事項に示されています。全員が画一的な表現になるのではなく、様々な表現形式や技法、材料に触れさせる中で、生徒一人一人の希望や考えを大切に、それぞれのよさが発揮され、能力が高められるように柔軟な指導をすることが求められています。

#### B 鑑賞

#### ねらいを実現した具体の姿の明確化

鑑賞の活動は、鑑賞者自身が感性や想像力を働かせながら自分の目と心で再度その作品の価値をつくりだしていく能動的な活動です。教師が一方向的に知識を与えるだけの授業にするのではなく、ねらいに応じて鑑賞させる作品を選定し、生徒が作品などからしっかり感じ取ったり、考えを深めたりできるような授業の展開が大切です。

アートゲームや対話型鑑賞などが鑑賞の授業で取り上げられることも増えてきました。このような活動で大切なことは、「何が描かれている?」「なぜそう思った?」だけの浅いオープンエンドで終わらないということです。例えば、右の作品では、B鑑賞(1)アの内容から「紅白の梅樹は、



尾形光琳 紅白梅図屏風(MOA美術館)

とてもリアルで写実的なものに対して、末広がりやS字に流れる川や渦巻き模様の水面は図案化されたデザイン的な表現になっています。また、白梅の老木と紅梅の若木や金地の明るい部分と水面の暗い部分など、作者は自然の美しさを対比をテーマに表現しようとしたのではないかと思います」のように、造形的なよさを見付けたり、作者の表現意図や心情を作品の中から読み取ったりするような学びをつくりだしていく必要があります。

日本美術の鑑賞においても、その特性を踏まえ、「自然との共生(花鳥風月や雪月花などの素材やモチーフ)」「外国の文化との融合」「わび、さび、余白など」「精緻な手仕事の美」「大和絵や浮世絵、琳派などの多様性」などをねらいにおいて指導することが大切です。



## 1 保健体育科授業づくりのポイント

中央審議会の答申（平成20年1月）において示された学習指導要領の改善の基本方針に従って中学校では「健やかな体の基礎となる身体能力と知識を定着させ、身に付けた段階に応じ運動を豊かに実践していくための資質や能力を育てるとともに、主として個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解できるようにする」ことが重視されています。

中学校学習指導要領解説保健体育編（平成20年9月）（以下「新学習指導要領解説」という。）には、保健体育科の目標の改善として、「心と体をより一体としてとらえることを引き続き重視するとともに、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツマンライフを実現することを目指し、『生涯にわたって健康に親しむ資質や能力の育成』、『健康の保持増進のための実践力の育成』及び『体力の向上』の三つの具体的な目標が相互に密接に関連していることを示すとともに、保健体育科の重要なねらいであることを示した」とあります。

そこで、中学校保健体育科体育分野の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 生徒一人一人が自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組むための工夫

生徒一人一人が自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組む授業を展開するためには、それぞれの運動が持っている楽しさや喜びという運動の特性を明確にし、その特性に触れるような活動を重視することが大切です。また、生徒自らが考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決する、課題解決型の学習活動を取り入れることも大切です。

### Point 2

#### 指導内容と学習の目当ての明確化

運動の楽しさを味わうために必要な力をバランスよく身に付けさせるために重要な要素となる「技能」とともに、「態度」や「知識、思考・判断」についても、各運動領域の学習において指導すべき内容を明確にすることが重要です。

学習カード等を活用して運動のポイントを具体的に示し、学習の目当てを明確につかませるとともに、一人一人が目当てに応じて活動の仕方（練習の場）を選んで取り組めるよう学習活動（場づくり）を工夫することも大切です。

### Point 3

#### 身体能力の育成を重視した学習指導の工夫（体づくり運動、体育理論）

技能の習得のための練習方法や、動きを考えるなど、運動の技能と知識との関連を図ることができるよう工夫することが大切です。また、自分の健康や体力の状況に応じて体力づくりが実践できるように、自分に合った運動の仕方を選んだり、計画したりする活動を重視することも大切です。



## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆単元名「球技：ベースボール型」ソフトボール

Point 1 Point 2 Point 3 を生かした授業

## 1 実践のねらい

球技はゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。中学校では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められています。

第1学年及び第2学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにすることが大切です。また、球技の学習に積極的に取り組み、フェアにプレイすること、分担した役割を果たすことや、話し合いに参加することなどに意欲を持ち、自己の健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切です。

本実践では、ソフトボールにおいて、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を中心とした学習課題を追究しやすいようにプレイヤーの人数、グラウンドの広さ、用具など、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れました。本稿では、これらのことを踏まえた授業実践事例を紹介します。

## 2 学習指導の実際

### 1 単元の目標

- (1) 基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開すること。 (運動の技能)
- (2) ソフトボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレーを大切にしようとする。 分担した役割を果たそうとすることや作戦などについて話し合いに参加しようとする。 用具の管理や自己の仲間の健康・安全に気を配ること。 (運動の態度)
- (3) ソフトボールの成り立ちや、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすること。 (運動の知識、思考・判断)

### 2 指導計画

単元名	中学校第1学年及び第2学年 球技「ベースボール型」(ソフトボール) ※対象：第1学年女子 ⑦：本時															
時間	1	2	3	4	5	6	⑦	8	9	10	11	12	13	14	15	
0	オリエンテーション ○運動の特性や学習のねらい、計画、内容を理解する。 ○ソフトボールの学習準備をする。	学習内容の確認 準備運動 [ストレッチ、補強運動、用具への感覚を養う運動(体ほぐしの運動) 動きの習得を目指した運動(体づくり運動)]														
15		用具の基本的な操作を身に付け、簡単なゲームを楽しむ (ポイントの確認、課題の把握) ～基本的なバット操作やボール操作を身に付けて、簡単なゲームを楽しもう～											＜リーグ戦＞ 易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を楽しむ			
30		～仲間と連携した動きでゲームを楽しもう～											・生徒の実態に応じたルール方法の習得 ・審判方法の習得 ・リーグ戦の運営			
45		基本的なバット操作やボール操作の課題解決へ向けたドリルゲーム (各技能のドリルを得点化したゲームなど)						走塁や定位置での守備の課題解決のためのゲーム (あらかじめランナーを塁に置いたゲームなど)								
50		整理運動、本時の反省、次時の課題														



### 3 授業展開例

#### (1) 本時の目標

- ボールをタイミングよくバットで打つことができる。 (運動の技能)
- 仲間と教え合ったり、励まし合ったりすることができる。 (運動の態度)
- ボールをタイミングよく打つために必要なことが言える。 (運動の知識, 思考・判断)

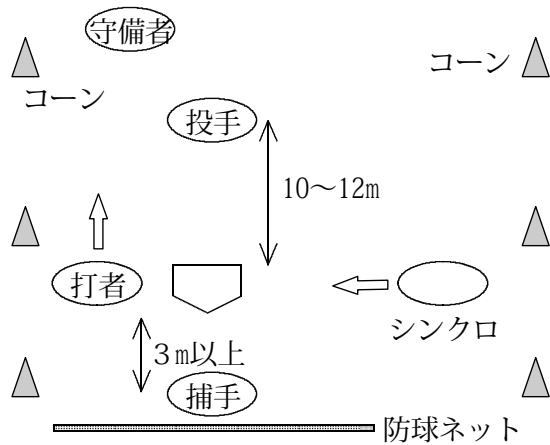
#### (2) 準備物

学習カード, 筆記用具, バット, グラブ, テニスラケット, ボール (ソフトボール, グリーンソフトボール, ソフトテニスボール)

#### (3) 授業展開例 (7 / 15単位時間)

	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	<p>1 集合, あいさつ, 健康観察を行う。</p> <p>2 コート・用具の準備, 準備運動を行う。            (1) コート, ボール, バット, グラブ, ラケットの準備            (2) ランニング, ストレッチ, 補強運動            (3) ボールやバット, ベースを使った準備運動 (体ほぐしの運動の趣旨を取り入れる)</p> <p style="text-align: center;"><b>Point 3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールジャグリング</li> <li>・バットを使った体幹の回転運動</li> <li>・キャッチボール (人数を変えて)</li> <li>・バットひねり (二人組)</li> <li>・素手でバッティング (二人組) 等</li> </ul>	<p>○リーダーを中心に, チームの準備運動を効率よく行わせる。</p> <p>○ボール慣れの運動目的に沿った正しい方法で取り組ませる。</p> <p>○ボールやバットの操作の方法は, 抽象的なイメージから技術のポイントを示し, より具体的な動きの形のイメージが持てるように言葉かけを行う。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈前時までに…〉            スイングの安全性を確保するため, ボールを使った活動の前に, バットを使った体ほぐしの運動など, バットの正しい振り方や力強く振るための体の使い方, 更には速いスピードでのスイング後のバットの置き方などを前時までに充分学習させておく。</p> </div> <p>※他のペア (グループ) と回数を競うことを幾つかの運動に入れていく。その際, ビューティーポイント (回数, 声, ファインプレーなど) を設定し, 良い点を褒めてペア (グループ) の点数に加えるようにする。</p>
展開	<p>3 本時のねらいを確認する。 <b>Point 2</b></p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「投げられたボールにタイミングを合わせてバットで打つにはどうしたらいいだろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○投球に対して顔を正対させて立つ基本姿勢を取り, ボールがバットに当たるまで見ること。</li> <li>○投球の動きに合わせて, テイクバックの動作を取ること。</li> <li>○投球されたボールに合わせてタイミングよく踏み込み, バットを振り出すこと。</li> </ul> </div> <p>4 トスバッティングをする。            ～課題の把握とその解決を図る～            (1) 四人1グループで役割を分担する。            (2) できるだけ投手に返すように打つ。            (3) 一人 10スイング×2セット            (4) バッティングの観察記録を記入し助言する。(シンクロを行う人)            (5) タイミングを合わせるための注意点をグループで話し合う。</p> <p>《守備者もこれまでの学習を生かした捕球と送球をする。》</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈既習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールの正面に回り込んで緩い打球を捕ることができる。</li> <li>・ねらった方向にボールを投げるができる。</li> </ul> </div>	<p>○タイミングを合わせるために必要な知識と体の動かし方を理解できるような具体的な言葉で指導する。</p> <p>○安全性の面, 生徒の実態, 用具の準備状況に合わせて次の方法を選び行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベースを挟んだ打者のスイングにタイミングを合わせ (シンクロ) インパクトまでの素振りをしてしながら, 観察学習を行わせる。</li> <li>・捕手を置く場合は, 打者から少なくとも3m後方に位置し, グラブを正面に構え, 立位でボールの捕球に備える。</li> </ul> <p>【評価規準】            「仲間と教え合ったり, 励まし合ったりすることができる。」 (運動の態度)</p>

場の設定



(6) 安定したスイングによるタイミングを合わせた打撃を身に付ける。

5 トスバッティングゲームをする。  
投げられたボールに対してタイミングを合わせて打つ課題を解決する方法を確認する。 **Point!**

- (1) トスバッティングゲーム (10本) × 2ゲーム
- (2) 四人グループで、二人組の敵と味方に分かれ、投手と打者をそれぞれ行い、ペアで獲得した得点を競う。  
※・投手と打者は同じチーム  
・捕手と野手は同じチーム
- (3) 投げられたボールへの対応の状況を得点化する。  
○投手に打ち返す→5点  
○前方向(90度程度)へ打ち返す→3点  
○ファールチップ→1点  
○空振り→0点
- (4) 観察記録を記入する。

整理

- 6 整理運動、用具の片付けを行う。  
(1) グループごとにストレッチ等を行う。  
(2) 役割分担をして、片付けを行う。
- 7 本時のまとめを行う。  
(1) ゲームの結果、観察記録を基に、互いの課題の確認(相互評価)を行う。  
(2) 学習の成果や課題などのまとめを発表する。  
(3) 教師の評価を聞く。

○評価規準を示し、助言に当たるとともに、生徒相互で評価を行う。

【評価規準】

評価項目	十分満足できる	おおむね満足できる
基本的な構え(打者)	自然体で構える	構えを取ることができる
テイクバック(打者)	タイミングよく引く	構えを取ることができる
タイミング(打者)	一連の流れで合わせる	合わせる
スイング(打者)	踏み込みのあるスイングをする	スイングができる
ボールの判断(投手)	打ちやすいボールを投げる	届くボールを投げる

「投げられたボールにタイミングを合わせてバットで打つことができる。」 (運動の技能)

「ボールをタイミングよく打つために必要なことが言える。」 (運動の知識, 思考・判断)

○獲得した得点をグループごとにホワイトボードに記入させ、教師がビューティーポイントを加算していく。

《努力を要する生徒への手だて》

- ◆構え：顔をボールに正対させる。
- ◆スイング：テイクバックから水平な安定したスイングを意識させる。
- ◆タイミング：
  - ボールを最後まで見る。
  - 投手の腕の引きに合わせて、バットを後方へ引く(テイクバック)。
  - ボールの動きを予測する。
- ◆用具：
  - ボールをうまくインパクトできない場合は、テニスラケット、ボールに替えて活動させる。
  - 捕球の際、ボールへの恐怖心がある場合は、グリーンソフトボール等に替えて活動させる。

- 心身を十分にほぐすようにさせる。
- 協力して、手際よく片付けさせる。
- 学習課題に対する自分の考えをまとめ、発表させる。
- 学習成果の上がっている生徒や多くの課題を抱えている生徒を指名し、工夫や課題解決の手だてについて情報を共有できるように配慮する。

### 3

## 成果と課題

今回のソフトボールの授業を指導計画に沿って進めていく中で、最も重要としたのは **Point 1** に示されている「生徒一人一人が自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組むための工夫」です。新学習指導要領解説において、第1学年及び第2学年のベースボール型の技能の内容に示されているように、攻撃を重視して、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようになることを目指して計画を立てました。また、男女共修で行う授業の中で、いかにソフトボールの持つ特性を男女共に理解し、楽しみや喜びを共有させることができるかを考えながら指導を行いました。

### 1 成果

成果としては、まず、教材・教具の工夫により、ボールやバットに対する恐怖心の軽減や、実践につながるインパクト動作が習得できたことが挙げられます。また、ドリルゲームの中で個々の課題に気付かせ、技能の向上を目指したスイング練習に取り組んだり、相互評価の中で互いのスイングについて教え合うことができたことが挙げられます。練習の中で、互いに「○○さん、ナイス、タイミング！」や「○○さん、頑張ってる踏み込んで！」というタイミングを取るための具体的な声かけが増えてきて、活気あふれる授業が展開できました。積極的な生徒の中には「先生、本格的なゲームがしたい」という生徒も出てきました。

男女で異なる道具を使用するなどの工夫をすることによって、すべての生徒が同じようにソフトボールを楽しむことができ、徐々にアドバイスや応援をし合う姿が見られました。経験者（ソフトボールを既に経験している生徒）には特別ルールを設けたり、基本技能の再確認をさせたりすることで、意欲的に授業に取り組むことができました。

### 2 課題

課題としては、まず、初めてベースボール型の運動内容を体験する生徒の走塁が挙げられます。状況に応じた走塁ができるよう、経験者をランナーコーチにし、支援させることにも取り組みましたが、打球に応じた素早い動きができるまでには至りませんでした。ゲーム経験と出塁経験を多く持たせるためにも、第1学年で、キックベースボールや手打ち野球など、簡単な技能とルールでベースボール型の特性に十分に触れさせることが必要であると考えられます。

また、攻撃や守備においては、直接その場面にかかわることのない生徒の運動量の確保をいかにできるか、そしてチームとしての一体感をいかに感じさせるかということも課題として浮かび上がってきました。チームごとに言語活動を伴う活動を工夫させたり、打順を待つ間の練習を工夫させたりすることも重要であると考えます。

### 実践上の留意点

今回の単元では、教材・教具の工夫や活用方法の工夫、そして、限られた場所を有意義に使う工夫など、今までとは少し違った視点を持って授業づくりがなされています。対象を第1学年の女子に設定していることから、**Point 1** の「生徒一人一人が自主的、自発的に意欲を持って学習に取り組むための工夫」を重視し、体づくり運動の趣旨を、導入や主運動につながる場面に盛り込み、個に応じて困難性を高める動作でも具体的にイメージしやすいように場の設定がされています。このようなことが、基本的な技能の習得につながり、球技の学習内容の特性をより味わえることとなります。さらに、自分の健康や体力の状況に応じて体力づくりが実践できることへとつながっていくことにもなります。

## ③ これからの方向性

今回の改訂で、小学校から高等学校までの12年間で三つの段階に分けられました。最初の段階を「各種の運動の基盤を培う時期」、次の段階を「多くの領域の学習を経験する時期」、そして最終段階を「卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続できるようにする時期」とされました。中学校では、第1・2学年が「多くの領域の学習を経験する時期」、第3学年が最終段階に属しています。このことから、新学習指導要領の中で、それぞれの目標や内容が、第1・2学年と第3学年に分かれて示されています。そこで、これからの授業づくり等において早急に取り組んでいかなければいけないことを次に示します。

### 必修の領域

### 武道、ダンス、球技の指導の工夫

今回の改訂で、第1・2学年ですべての領域が必修となりました。これに伴い、これまでの武道・ダンスの選択がなくなり、どちらも履修することとなりました。また、球技においては、これまでの内容ごとの履修から型での分類となり、すべての型を履修することとなりました。用具・場所及び安全の確保が困難な「武道」と「球技：ベースボール型（ソフトボール）」、体育的行事の演技として取り組みがちであった「ダンス」ですが、その課題を解決していく手だてについても各学校において創意工夫が求められます。特に学習経験の少ない内容においては、体づくり運動などを積極的に取り入れ、主運動につながるような運動を行いながら取り組んでいきたいものです。

### 年間指導計画の作成

### 年間計画の作成の工夫

これまでにない新しい考え方として運動の取り上げ方が弾力化され、「体づくり運動」「体育理論」以外のすべての指導内容について、第1・2学年のいずれかの学年で指導することができるとされています。第1・2学年の目標が達成できるように学習内容を配置し、第3学年で幅広い経験の中からそれぞれの内容を選択できるように、各学校において年間計画での創意工夫が求められます。第1・2学年の年間指導計画の一部（表）を紹介しますので、参考にしてください。

また、小学校や高等学校との接続を意識した指導が重要となり、**Point 2**の「指導内容と目当ての明確化」にも挙げているように、その授業で何を学ばせたいのかということを明確にした授業づくりが求められています。

表 中学校年間指導計画（例） 第1・2学年で全領域を履修する場合（抜粋）

時間	1 学 期													2 学 期												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
第1学年及び第2学年	105	体ほぐしの運動（3）	陸上競技 [2]1 短距離・リレー(7) ハードル走(6) 走り幅跳び(4) 走り高跳び(4)						水泳 [1]0 クロール・平泳ぎ						体力を高める運動（4）	武道・ダンス [3]2 剣道16 創作ダンス6 現代的なリズムのダンス6 フォークダンス4						保健[4] 精神機能の発達と自己形成	理論 [2]			
			器械運動 [2]1 マット運動(8)・跳び箱運動(8) 鉄棒・平均台から1選択(5)						水泳 [1]0 クロール・平泳ぎ 背泳ぎ・バタフライから1選択							球技(ネット型・ベースボール型) [3]2 バレーボール[16]・ソフトボール[16]										
第1学年及び第2学年	105	体ほぐしの運動（3）	器械運動 [2]1 マット運動(8)・跳び箱運動(8) 鉄棒・平均台から1選択(5)						水泳 [1]0 クロール・平泳ぎ 背泳ぎ・バタフライから1選択						体力を高める運動（4）	球技(ネット型・ベースボール型) [3]2 バレーボール[16]・ソフトボール[16]						保健[6] 生活に伴う建築物の衛生的管理 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 交通事故などによる傷害の防止	理論 [2]			
			保健 [4] 身体の環境に対する適応能力 至適範囲 飲料水や空気の衛生的管理						※ 2グループに分かれて、バレーボールとソフトボールを16時間ずつ行う 途中で種目を交代する。																	

### ○参考文献

- ・ 独立行政法人 教員研修センター（2009）「平成21年度子ども体力向上指導者養成研修（西部地区） 中・高等学校ボール操作の動きの質を高める指導Ⅱ（ベースボール型） 指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方（資料）」



## 1 技術・家庭科〔技術分野〕授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成20年9月）では、改訂の要点として、「内容構成の改善」「履修方法の改善」「社会の変化への対応」「言語活動の充実」の4点が挙げられています。特に、「内容構成の改善」「履修方法の改善」は本教科における今回の改訂の特徴となっており、「すべての内容を共通に履修させる」と示されています。このことは、中学校技術・家庭科〔技術分野〕の授業づくりの根幹にもかかわるもので、多くの実践上の課題が想定されます。また、「社会の変化への対応」「言語活動の充実」は技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、生活の課題を解決する能力をはぐくむ上で重要です。

そこで、これからの中学校技術・家庭科〔技術分野〕の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 3 学年間を見通した全体的な指導計画の作成

生徒が小学校で習得した知識、概念及び技能を把握した上で、地域の特色を生かした題材の設定や、全体として調和の取れた3学年間を見通した指導計画の作成が必要になってきます。その際、小学校図画工作科や中学校の他教科・領域等との関連を図ることが求められます。特に学習指導要領移行措置期間においては、年度によって数学科や理科の学習内容が異なりますので、このことに留意する必要があります。限られた授業時数の中で、教科のねらいを十分達成できる指導計画となるよう基礎的、基本的な内容を押さえたものにする必要があります。

### Point 2

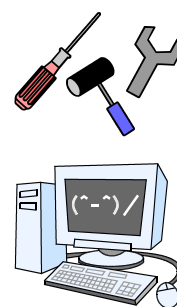
#### 効果的な題材の設定

○各内容、項目、事項の有機的な関連を図る

技術・家庭科における題材とは、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したものです。題材の設定に当たっては、各内容、項目、事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮することが重要です。

○生徒の日常生活とのかかわりや社会とのつながりを重視する

自己の生活の向上とともに、家庭や地域社会における実践に結び付けることができるような題材を設定することも重要です。また、ゲストティーチャーや地域の専門高校、農業試験場等の関連施設との連携も効果的です。



### Point 3

#### 生徒の主体的な学習活動の重視

実践的、体験的な学習活動、問題解決的な学習は、技術・家庭科では以前から取り組んできたことです。将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応していくためには、知ることだけではなく、体験から得た知識や技術を用いて、生徒が主体的に、様々な制約条件の中で最適解を求める学習活動を設定することが大切です。

## 2 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆題材名「自律型制御ロボット『OJ2』の製作と制御」

Point 2 Point 3 を生かした授業

### 1 実践のねらい

平成20年3月告示の中学校学習指導要領技術・家庭（以下「新学習指導要領」という。）では、現行の内容「B情報とコンピュータ」を「D情報に関する技術」と改訂し、現行の指導項目「プログラムと計測・制御」を「プログラムによる計測・制御」とし、必履修化されました。

本実践事例では製作から計測・制御に至るまでの一連の学習内容を、生徒の興味・関心を高め、自主的に学習に取り組む探究型の問題解決的な学習として位置付け、指導計画を作成しました。Point 3 「計測・制御」の概念を理解させるために、制御段階だけでなく、製作段階においても新学習指導要領の内容「A材料と加工に関する技術」「Bエネルギー変換に関する技術」の指導項目・事項を「計測・制御」に関連付けました。Point 2 例えば、ねじ回しやはんだごて、ニッパなどの工具の使用法、ばね座金等の部品の形状や性質の中にも「計測・制御」の概念が存在しており、「計測・制御」がコンピュータのみに関するものでないことに気付かせるようにしました。

また、生徒は第2学年の理科〔第1分野〕で電気回路等の学習をします。それらと関連付けて指導するよう意識しました。

### 2 学習指導の実際

1 本題材で生徒に身に付けさせたい能力と教材の特徴

(1) 制御に関する生徒の実態

平成16年度に国立教育政策研究所が行った「音楽等質問紙調査」では、第3学年での現行学習指導要領の「B情報とコンピュータ (6)プログラムと計測・制御」の履修率が1.6%と、非常に低い値であることが示されています。中央教育審議会は「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（2008）において、「『プログラムと計測・制御』に関する内容が学校選択項目であり、中学校卒業時の生徒の情報活用能力に差が見られる」ことを課題として挙げ、現行学習指導要領における選択項目としての位置付けから必履修項目として位置付けることの必要性が示されました。実践校生徒への事前の質問紙調査でも、身近にある電気機器などを利用はしているが、その制御に関しては余り知らないという結果が出ました（図1）。

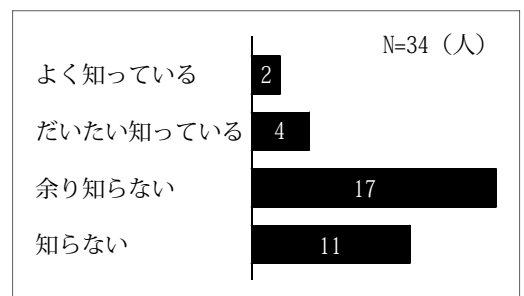


図1 「制御」とは何か知っているか

新学習指導要領では、現代社会で活用されている多様な技術を「D情報に関する技術」などの四つに整理し、すべての生徒に履修させることになりました。

(2) 教材の特長 Point 2

本実践では、自律型制御ロボット「OJ2」（以下「OJ2」という、図2）の製作と制御を通して、生徒に制御学習への理解を深めさせ、工夫し創造する能力を身に付けさせたいと考えました。そして、そのための指導計画の作成と指導法の工夫を行い、それらの効果を

探ることにしました。

OJ2は赤外線を感知し、サッカー競技などに利用できる赤外線センサ、底面の濃淡を読み取り、ラインレースなどに利用できるラインセンサ、障害物を感知する三つのタッチセンサを基本セットとして備えており、その他地磁気センサ等のセンサ類の拡張性も高くなっています。これらの性能に比べ、安価であることから教材として利用することにしました。



図2 自律型制御ロボット「OJ2」

## 2 指導計画

表1 授業実践の指導計画


	学習内容	主な学習活動	指導上の留意点
第一次 (導入)	「制御について知ろう」	・生活の中で利用している電気機器に制御機能が組み込まれていることを知り、制御に対する興味・関心を持つ。	・携帯電話を分解し、PIC等の実物を提示することでコンピュータの内部に組み込まれている構造の一端を知り、制御機能が組み込まれていることを知らせる。
第二次 (製作段階)	第1時 「OJ2について知ろう」 第2～4時 「はんだ付けをしよう」 第5～8時 「組立てをしよう」	・OJ2について知り、制御学習全体への見通しを持つ。 ・OJ2にダウンロードするプログラムを変更することにより同じマシンが多様な動きをすることでその中で制御の存在と必要性を知る。 ・はんだごて、ニッパ等を利用し、部品を安全に正しく取り付け。 ・簡単な電気回路と使用部品の役割について知る。 ・六角レンチ、ラジオペンチ及びねじ回し等の工具を利用し、ねじやナット等を安全に正しく取り付け。	・安全に正しく工具を使うことは、自らが工具を制御しているということや、ナットの締め付けにも制御が必要になることに気付くよう助言する。 ・授業の中で毎時間制御に関する発問を行い、制御に対する意識付けをする。 ・電気回路については、理科で学習した内容と関連付けて指導する。 ・制御されたOJ2を教室に展示することにより完成形の意識付けと目標の明確化を図る。 ・「進捗表」を活用し、生徒の自主的取り組みを支援する。
第三次 (制御段階)	第1時 「プログラムについて知ろう」 第2・3時 「ボウリングをしよう」 第4・5時 「迷路脱出をしよう」 第6・7時 「ラインレースをしよう」 第8～10時 「サッカーゲームをしよう」	・コンピュータを制御する主要言語としてのC言語の存在を知り、インタフェースは人間が使いやすいようにGUI (Graphical User Interface) 化されていることを知る。 ・OJ2を制御し、直進するようプログラムを作成する。 ・理論上の動きと実際の動きに違いがあることに気付く。 ・10本のピンを倒すためにプログラムを改良する。 ・タッチセンサを利用した条件分岐の考え方があることを知る。 ・LOOP構文を利用した無限ループの考え方があることを知る。 ・より早く、より正確に迷路脱出をするためにプログラムを改良する。 ・ラインセンサを利用した条件分岐の考え方があることを知る。 ・迷路脱出のときに利用したルーチンワークを応用し、ラインレースするプログラムを作成する。 ・より早く、より正確にラインレースをするためにプログラムを改良する。 ・前段階までに学習した内容を総合的に応用しサッカーゲームができるプログラムを作成する。 ・より早く、より正確にサッカーゲームをするためにプログラムを改良する。	・制御機能を持つものが身の回りに多数存在していることに気付かせる。 ・今回の授業ではコンピュータによる制御を中心に学ぶことを伝える。 ・コンピュータを制御する主要言語としてのC言語の存在を知らせ、人間に分かりやすくするためアイコン等でのプログラムの代替が行われていることを伝える。 ・基本的なプログラムの作成方法を知る。 ・問題解決的な学習の中でプログラムの工夫・改良を行う。 ・自己の学習だけでなく話合いの中で、学習を進めていく。 ・変数、TIMER構文を利用した回数や時間の設定の概念を伝える。 ・ラインセンサの条件分岐のプログラムがタッチセンサのプログラムの応用であることに気付くような助言をする。
第四次 (まとめ)	「まとめをしよう」	・制御が生活のどのような場面で利用されているのかを確認する。 ・制御の考え方を学ぶことが生活にどう生かされるのかを考える。	・生活に利用されている場面が想起できるような助言をする。 ・制御について学ぶことが論理的な思考につながることを伝える。

## 3 授業展開例

授業展開例として、表1の指導計画における第三次の第3時の学習指導案(本時案)を表2に示します。

表2 学習指導案(本時案)

本時案(第三次の第3時)		
本時の目標	○提示された課題を解決するために適切なプログラムを作成できる。(工夫・創造)	
学習活動	教師の支援	評価の観点
1 本時はボウリングの	○前時の内容を振り返らせ、直進の動きを	

<p>プログラムを作成することを 知る。</p>	<p>させるために必要なプログラミングの要素を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「直進」「旋回」の動きを確認する。</li> <li>○直進する条件が、プログラムにだけあるのではなく、走行路やモータのギヤの状況にも左右されることに気付かせる。</li> </ul>	
<p>左右のモータを制御し、2 m先の10本のボウリングのピンに見立てたフェルトペンを効率的に倒す方法を考えよう。</p>		
<p>2 どのようにすればボウリングのピンが倒れやすいか発想する。</p> <p style="text-align: right; background-color: #f08080; color: white; padding: 2px;">Point 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○普通のボウリングと違うことに気付かせる。</li> <li>○生徒同士のアイデアを出し合う時間を取る。</li> </ul>	
<p>3 プログラミングを繰り返し最適解を探す。</p> <p style="text-align: right; background-color: #f08080; color: white; padding: 2px;">Point 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「正解」ではなく「最適解」を求めるプログラムになるよう、繰り返し取り組ませる。</li> <li>○「最適解」に近いプログラムをダウンロードしたOJ 2を利用し、作成した生徒に実演と発表をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○提示された課題を解決するために適切なプログラムを作成できる。(工夫・創造)【観察】</li> </ul>
<p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「効率的」なプログラミングについて考えさせる。</li> </ul>	

### 3

## 成果と課題

### 1 授業実践での様子と成果

授業実践における製作、制御の各段階において、生徒が互いに積極的に情報交換をしながら製作や問題解決に取り組んでいる姿が印象的であり、成果の一つだと考えます。製作段階において、スプリングの調整や後輪のボールの締め付け具合の調節などを通して、制御がコンピュータについてのみ存在するものではないことも生徒に確認させることができました。プログラミングの場面では、一人一人が作業に集中し取り組む場面と互いに問題解決に向けて討議する場面の両方が授業の中で多く見られることは特徴的でした。問題解決に取り組んだ一例を表3に、生徒の思考の深まりの一例を表4に示します。

生徒の感想は「実際の動きと違った」「実際のボウリングと比べてみると…」「イメージに合わせて…」のように、具体的概念から抽象的概念へと昇華されていきました。問題解決をすることで喜びの感情が芽生え「もっと取り組みたい」という行動へと表れていきました。このことは、生徒の思考の深まりとこの教材の可能性を含んでいるように考えられます。



表3 問題発見とその解決の例

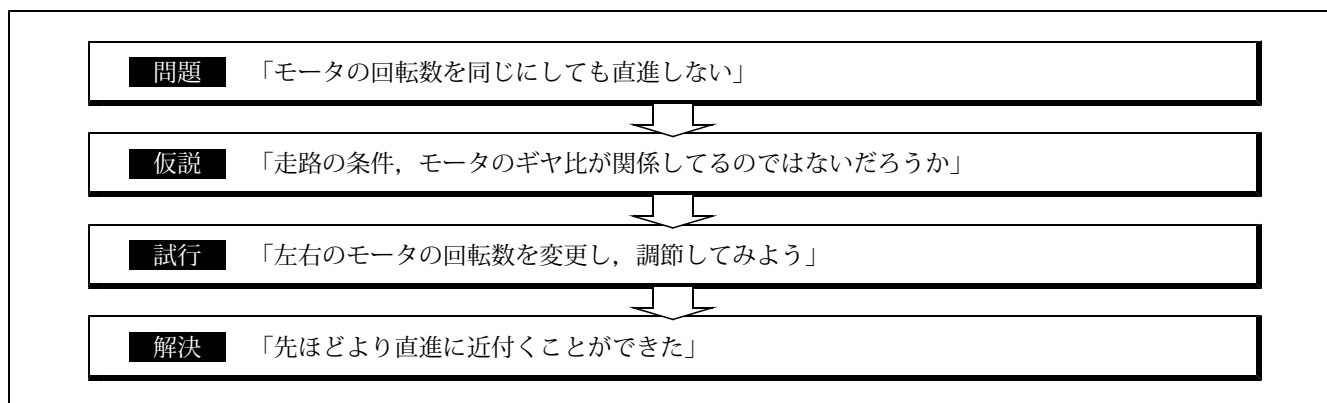


表4 ボウリングにおける生徒の学習

生徒の疑問	指導者の助言	開発されたプログラム	生徒の感想
Q1 左右のモータの回転数を同数にしているのに、なぜ直進せずに、右に曲がっていくのだろう？	A1 同数にしたらまっすぐに行くはずだね。モータ自体にも差があるのかもね？ そうだとすれば、何を調整すればいい？	P1 右のモータの回転数より、左のモータの回転数が少ないもの。左右のモータの回転数を調整したもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えた動きと実際の動きと違うことがあり困った。プログラムは調整する必要があるんだ。</li> <li>直進したときにはとてもうれしかった。制御は面白い。</li> </ul>
Q2 直進するようになったけれど、倒れない。どうすればよいだろう？	A2 もの同士が当たったときに倒れやすい要素には何があるだろう？	P2 モータの回転数を上げたもの。速度が増したことで倒れやすくなった。 P3 実際のボウリングのようにあえて曲がるようにしたもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>速度を上げると、また直進しなくなったので調整した。</li> <li>実際のボウリングのように曲がる球も投げようと思っしたら、倒れ方が違った。</li> </ul>
Q3 大分倒れるようになったぞ。今度は10本のピンをすべて倒したい。	A3 ピンの置かれている間隔がO J 2の幅より広い。本物ではできないけれど、O J 2ならできる方法があるよね。	P4 ピンの場所で前進、後退させるもの。 P5 ピンの場所で回転させるもの。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「制御」が自分のイメージに合わせて、ものを動かすことだと分かった。</li> <li>10本のピンが倒れるのがうれしい。</li> </ul>

## 2 実践を終えて

O J 2を活用し、問題解決的な学習を組み入れた制御学習は、生徒が積極的に取り組み、理解を深め、工夫し創造する能力を身に付ける上で有効であると考えられます(図3)。その一方で、課題もありました。例えば、機械的、電氣的なトラブルに対応するため、予備のO J 2やP I Cを用意する必要がある

こと、制御学習に対する学習意欲の差が生じたときにうまく配慮し、つまずきのある生徒への対応の工夫をする必要があることなどが挙げられます。

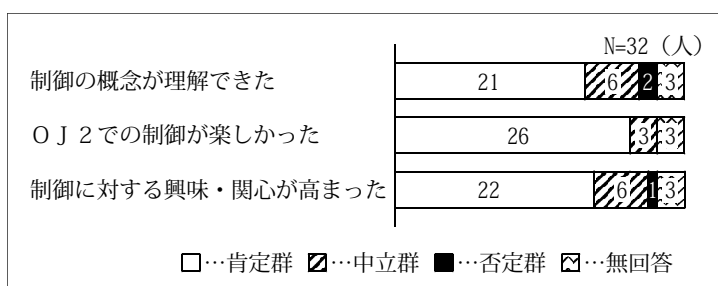


図3 授業後の制御に対する意識

### 実践上の留意点

O J 2を利用したこの指導計画は、生徒の興味・関心を高めながら問題解決的な学習に取り組ませることのできるものです。ただ単に、製作する、プログラミングをする等の表面的な目標にとらわれるのではなく、すべての学習内容が「制御とは何か」「生活に必要な制御とはどのようなものか」という大局的なテーマに向けデザインされる必要があります。そのために教師側の事前準備、生徒の質問に対する対応力、学習進度の調整や機械的、電氣的なトラブルに対する対応力等の多くの力が必要になってきます。

## 3 これからの方向性

新学習指導要領では、多岐にわたるすべての内容を、すべての生徒に履修させることが求められています。そして、その学習の中で、生活上の技術的な課題に対して、様々な制約条件の中で解決策を検討したり、その結果を評価したりする活動が求められています。同様のことが、本教科のこれからの在り方を考える上で必要になってきます。そのうち、3点を次に示します。

### 環境整備

#### 実習室等の環境の整備と管理

実習室等の環境の整備と管理は、安全管理の面や生徒の内発的な学習意欲高揚の面において効果があるでしょう。実習室の採光、通風、換気等に留意するとともに、生徒の作業動線を考慮して設備を配置したり、工作機械の周囲には安全域を設けたりして事故防止に努めることが必要です。また、実習等で使用する材料の管理や用具・工具の手入れも事故防止の一翼を担います。

新学習指導要領では、それまで選択項目・事項であった「エネルギー変換」「栽培」「マルチメディア」「計測・制御」がすべて必修化されました。このため、学校によっては、従来整備されていなかったり購入されていなかったりした用具・工具があるのではないのでしょうか。校内での理解を得て予算化し、必要なものを準備しておくべきでしょう。

### 他教科等との連携

#### 中学校の他教科や小学校と連携した効果的な指導

新学習指導要領では、多岐にわたる内容を限られた授業時数で指導する必要があります。そのため、中学校の他教科や小学校での学習内容との関連を明確にして、系統的、発展的に指導ができるよう配慮することが求められています。例えば、「エネルギー変換」の視点では、小学校では第4学年で乾電池のつなぎ方、光電池のはたらき、第6学年で電気の利用、変換を学習しています。中学校では第2学年で電流と磁界、第3学年でエネルギーの変換効率を学習します。指導計画を作成する際、小学校での学習内容を踏まえ、中学校の他教科の担当者と連携を図り、効率的な指導計画にする必要があります。

また、今回の改訂で、従来「情報とコンピュータ」において指導していた「コンピュータの基本的な操作」が小学校総則に移行しています。また、小学校総則では、児童が情報モラルを身に付けることも示されています。地域の小学校と連絡を密にし、「何を、どこまで指導しておいてもらうか」を明確にしておくことが必要です。

### 技術の評価と活用

#### 技術を適切に評価し活用する能力と態度の育成

新学習指導要領の技術分野の目標には、「技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる」と示されています。例えば、「世の中には100%安全な技術は存在せず、何らかのリスクがある。そのリスクを理解し、最善の技術を判断し、選択することが必要である」というようなリスク管理も含め、技術と社会や環境とのかかわりについての学習を通し技術の在り方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し、主体的に活用する指導が必要です。また、そのための適切な具体的事例を検討しておくことも求められます。



## 1 技術・家庭科〔家庭分野〕授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成20年9月）では、改訂の要点として、「内容構成の改善」「履修方法の改善」「社会の変化への対応」「言語活動の充実」の4点が挙げられています。特に、「内容構成の改善」「履修方法の改善」は、本教科における今回の改訂の特徴となっており、「すべての内容を共通に履修させる」と示されています。このことは、中学校技術・家庭科〔家庭分野〕の授業づくりの根幹にもかかわるもので、多くの実践上の課題が想定されます。

そこで、これからの中学校技術・家庭科〔家庭分野〕の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 3 学年間を見通したストーリー性のある指導計画の作成

指導を効果的に行い、生徒の意欲的な学びを促すためには、教師が教科や分野の目標を踏まえて、題材を効果的に配列し、3学年間を見通したストーリー性のある指導計画を作成することが大切です。そのためには、目指す生徒の姿に近付けるための目標や指導の道筋を明確にし、それらに沿って題材をつなぎ、積み上げることが重要です。

その際、小学校の学習を踏まえ、他教科等との関連を明確にして、系統的、発展的に指導ができるように配慮するとともに、限られた授業時数の中で、教科のねらいを十分達成できる指導計画となるよう、基礎的、基本的な内容を押さえたものにする必要があります。

### Point 2

#### 新しい内容を踏まえた魅力ある題材の設定

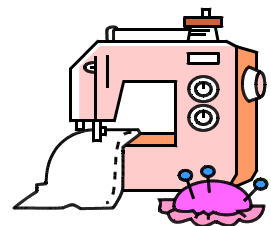
題材の設定に当たっては、AからDの各内容、項目、事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮することが重要です。

自己の生活の向上とともに、家庭や地域社会における実践に結び付けることができるような題材を設定することも重要です。特に、指導事項「生活の課題と実践」においては、家庭や地域社会との連携を積極的に図り、効果的に学習が進められるよう配慮する必要があります。

### Point 3

#### 生徒の主体的な学習活動の重視

実践的、体験的な学習活動、問題解決的な学習は、技術・家庭科では従前から取り組んできました。将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応していくためには、理論や考え方のみの学習に終わるのでは十分ではありません。実習や調査などの実践的、体験的な学習活動を通して具体的に学習することにより、学習した知識と技術が実際に活用する力として、生徒自らの生活に生かされます。このような学習が、生活を主体的に営む能力と態度の育成につながります。



## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

◆題材名 「ガイダンスを生かしたストーリーのある家族の学びを目指して」

Point 1

Point 2

Point 3

を生かした授業

## 1

### 実践のねらい

平成20年3月告示の中学校学習指導要領技術・家庭（以下「新学習指導要領」という。）では、内容A(1)「自分の成長と家族」について、家庭分野全体のガイダンスとしての扱いと、A(2)「家庭と家族関係」、A(3)「幼児の生活と家族」との関連を図り学習を進める扱いの二つが示されています。

本実践事例では、A(2)との関連を図りつつ、ガイダンスを生かし、3年間の学びが生きる力の基盤となるようなストーリーのある家族の学びの在り方を追求しました。 Point 1

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 ねらいを踏まえた実践上の工夫

これまで、ガイダンスとしての実践の多くは、小学校の学習と結び付けて中学校の学習内容を紹介することにより、学習への期待を高めることを目的とした色合いが濃いものでした。これに加えて、家庭分野を学ぶ意味を生徒自らが考え、3年間の学びの展望を持つことができるガイダンスの実現が求められています。

そこで、家庭分野の題材に対する魅力だけでなく、家庭分野の必要性や学ぶ意味を理解することを意図して、本題材を設定しました。また、ガイダンス自体を、一つの題材としてストーリー性のある3年間を見通した年間指導計画の最初に位置付けて、家庭分野の学びを見つめる場面を設定しました。このことにより、

家庭分野の学びの軸にとらえられた家族との生活を見つめる学習が、その後の3年間の全ての学びに展開して行くことが可能となるようにしました（図1）。 Point 1 Point 2

生徒にとって家族を扱う学習への期待や理解は他の学習内容と比較して低く、家族を扱う学習での題材設定は家庭分野を指導する上での課題の一つであると言えます。しかし、家庭生活を見つめる際に家族との生活は欠かすことのできない視点なので、抽象的な言葉のまとめにとどまらないように、具体的な生活実践に結び付くことを目指し、題材の指導計画を作成しました（表1）。

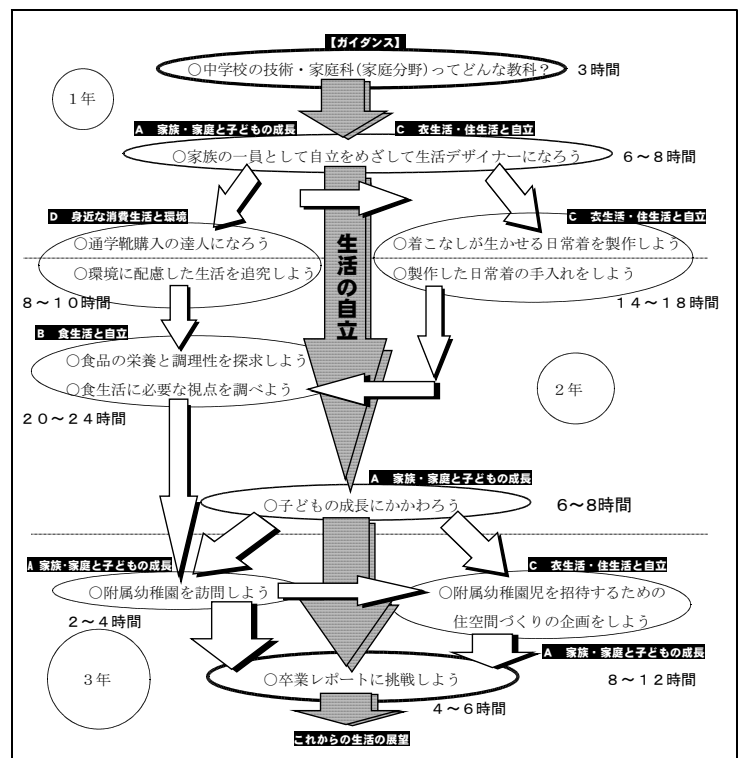


図1 ストーリー性のある3年間の学びのつながり

\* 出典：中等教育資料平成20年10月号（岡山大学教育学部附属中学校の実践）

表1 題材の指導計画

(※本時案をゴシックで示す)

	指導計画	学習活動	指導上の留意点
第一次 家庭分野 ガイダンス	第1・2時 「アンケートで家庭生活を分析しよう」 ＜本時案 表2＞	○小学校での家庭科の学習を振り返りながら、中学校で技術・家庭科〔家庭分野〕を学ぶ意義や3年間の学習の流れを把握し、学習における自分の課題を持つことができる。	○小学校での学習を生かして、現在の生活実践に具現化できることを考える場面を設定する。どの程度実際にかかわることができているかを全員で協力してアンケート調査（回答・集計）し、その結果を班で分析するようにする。
	第3時 「アンケート結果の分析から家庭分野の学びの必要性を考えよう」	○家庭生活と家庭分野の学びのつながりについて、アンケート調査を基に話し合うことができる。	○生活者としての自立を目指した視点から、家庭分野の学びの必要性を考える学習に結び付くようにする。
第二次 家族との生活を見つめる視点を学ぼう	第1時 「身近な生活空間をデザインしよう」	○生活者としての自立を目指した生活空間の使い方が工夫できる。	○教室のロッカーを生活空間ととらえ、現状分析から、家族との生活空間をデザインすることの重要性を考えることに結び付けるようにする。
	第2時 「時間簿で生活時間をデザインしよう」	○生活者としての自立を目指した生活時間の使い方が工夫できる。	○前時の生活時間の使い方を時間簿 <sup>1)</sup> で分析し、家族との生活時間をデザインすることの重要性について考えることに焦点を当てるようにする。
	第3時 「学びを生かしたオリジナル新聞を発行しよう」	○家族との家庭生活のあり方を知り、よりよい生活を目指して自分の家庭生活をデザインすることができる。	○ここまでの学習を生かして、生活空間や生活時間の視点から家族との生活をデザインし、新聞にまとめて発表し、家庭で家族に発信できるようにする。

1) 時間簿・・・あらかわ菜美氏考案。商標登録済。

本題材では、アンケートで家庭生活を見つめたり(図2)、生活の一場面を切り取って自分の生活空間や生活時間の使い方を分析したりする学習から、生活を見つめることの意味を理解させ、そこから生活をデザインすることの重要性に気付かせるように学習を展開していきます。

また、教材自体が実生活を扱っているため、学習後は自分の生活に結び付けてすぐに実践することができます。

Point 3

この班の担当は「食生活」

一目で集計結果が分かる

全回答をシールに記入後、用紙に貼付

一人暮らしをしなければいけないことがある

もう中学で一歩ずつ大人に近づいていっているんだから、自立精神を持たば、朝食作りくらいはできる。

分析の話し合いに結び付くつづやき

図2 アンケート集計用紙と回答・分析例

2 授業展開例 (第一次の第1・2時)

表2 学習指導案

学習目標	○小学校家庭科で学習したことを生活にどのように生かすことができるかについて話し合うことができる。 [関心・意欲・態度] ○学習したことを生かした生活の視点で、現状をアンケート結果から分析することができる。 [知識・理解]	
学習活動	教師の支援	評価 [観点] (方法)
1 本時の目標を知る。	○ 中学校の家庭分野について考えるガイダンスを行うことを伝える。	
アンケートで家庭生活を分析しよう		
2 小学校家庭科で学習したことを思い出す。	○ 学習した内容を書き出し、班で発表して情報交換をする場を設定する。	
3 学習を生かして家庭生活で実践できそうなことを考える。	○ 家庭生活での具体的な行為を、学習内容AからDにつながる次の視点から考え出すように助言し、生活の自立に向けた今後の学習についての見通しを持ちやすくする。 ・家族との生活 (A) ・食生活 (B) ・衣生活 (C) ・住生活 (C) ・環境や消費に関する生活 (D)	これまでの学習を生かした実践を発表することができる。 [関心・意欲・態度] (観察, ワークシート)
4 家庭生活で実践できそうなことに現在どのようにかかわっているかをアンケート調査する。 <回答>	○ 実践できそうなことの中からアンケート調査する項目を選び出す (表3)。 ○ クラス内の現状を把握するために班ごとに分担を決める。 例) 1班-食生活, 2班-住生活 等 ○ シールに回答を各自で書き込み、クラスで協力をして集計用紙に回答シールをはり、分析のための資料を完成させる (図2)。	
5 アンケート調査の結果を分析する。 <分析> <結果の共有>	○ 班ごとに分担をしたアンケート項目の分析結果を発表し合う活動を通して、生活を見つめることができるようにする。	現状をアンケート結果から分析し、その結果をまとめることができる。 [知識・理解]
6 本時のまとめと次時の学習内容を知る。	○ 次時は、本時の学習を基に中学校の家庭分野の学びの必要性について考えていくことを伝える。	(ワークシート)

## 1 本時の授業の様子

小学校家庭科の学習を生かして実践できそうなこととして、生徒からはいろいろな意見が出ました。それらの中からアンケート項目として生徒の人数分に絞り込み（表3）、各項目の分担班を決めて、シールを活用したアンケートの回答・集計・分析を行いました。さらに、アンケート調査の分析結果の情報を共有しました。

表3 アンケート項目例

【家族との生活】	あいさつをする，団らんする，家族の行事に参加する，家族の世話をする
【食生活】	朝食を調理する，食器を洗う，配膳を手伝う，食材の買い物をする
【衣生活】	洗濯物をたたむ，制服にアイロンをかける，ボタンつけをする，洗濯をする
【住生活】	自分の部屋の掃除をする，ゴミを出す，浴槽の掃除をする，本棚の整頓をする
【環境や消費に関する生活】	ゴミを分別する，節電する，節水する，エコ商品を購入する

クラス全体の傾向を把握しつつ自分の生活を見つめていくと、「意外だ・・・」「思った通り！」「どうして？」「やっぱり・・・」

等、自然にいろいろなつぶやきが生まれていました。そして、そのつぶやきを班での話し合いに結び付けて、分析へと発展させていきました。生活へのかかわり方は人によって異なりますが、その状況を的確にとらえることができることがまず重要であることに気付く場面ともなりました。

Point 3

表4 生徒の意見（一部）（← は、思考の深まり）

- 勉強が忙しくて時間がない  
→ 時間はつくれる → 生活デザインを学ぼう
- やり方を忘れてしまった  
→ 継続すれば忘れない → 新たな学びで復習しよう
- 自分がしようという意志がない  
→ 家族の一員としての自覚が足りない  
→ これからの生活を考えていない
- 家族に感謝の気持ちがない  
→ することの大変さを理解できていない  
→ 家族の思いに気付いていない

さらに、「これまでの学習を生かして実践できていることは学びの成果として評価できるが、そもそも実践できていると認識する力が身に付いているのか」また、「実践できないのはなぜなのか」といった教師の問いかけによって、生徒の思考は深まっていきました。学びが生活に生かされない理由として、生徒から表4のような意見が出されました。

これらの意見交流を通して、更なる知識や技術を身に付ける必要があること、家族への理解が十分でないということに気付き、生活のとらえ方を考え始める生徒の姿が見られました。また、家庭分野の学ぶ意義を自分の言葉でノートに綴るようにもなりました。

これらの学習活動を通して、生徒は自分の生活へのかかわりを客観的に把握することができました。アンケート調査の集計に終始することなく、結果を分析・共有する学習活動の充実によって、自分の生活を見つめる目が育つことを痛感しました。

## 2 実践を終えて

図2に示すアンケート集計結果は、3年間の学びを支え、生活と授業を結び付ける貴重な資料として、この後のそれぞれの学習の導入に活用できます。その活用の仕方について今後更に工夫することで、なお一層生徒の学ぶ意欲を高め、生活実践に結び付く力を養っていきたいと考えています。

## 実践上の留意点

ここでは、これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習を振り返ったり、家庭分野の学習のねらいや概要に触れたりして、見通しを持たせるなどの活動を通して、学習への意欲を高めるようにします。また、家庭分野の内容を学習することが、一人一人の生活の自立や家族と共に家庭生活を工夫し創造する能力につながることに気付き、学習への期待と意欲を持つことができるようにします。

なお、指導に当たっては、生徒のプライバシーについて十分配慮するようにします。

## 3 これからの方向性

各学校においては、新学習指導要領の要点について十分理解し、趣旨を生かした授業づくりが求められています。

ここでは、これからの技術・家庭科〔家庭分野〕の授業を考える上でのポイントを次に示します。



### 円滑な接続

### 中学校の他教科や小学校と連携した効果的な指導

中学校では、小学校家庭科の内容との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図る視点から、これまでの内容構成を改め、小・中学校ともに同様の枠組みを持つAからDの四つの内容に再構成されました。このことは、小・中学校の学習の連続性と系統性を重視したものです。中学校において小学校を踏まえた効果的な指導を行うことにより、基礎的、基本的な知識・技術と生活の課題を解決するための思考力、判断力、表現力などが確実にはぐくまれることを目指しています。

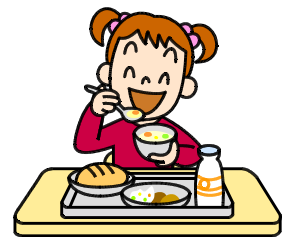
### 食育の充実

### 食生活を家庭生活の中で総合的にとらえた食育の充実

食育については、平成17年に食育基本法が成立し、「食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」ことが求められています。平成20年3月告示の中学校学習指導要領の第一章総則の教育課程編成の一般方針に、食育に果たす技術・家庭科の役割が明記されました。

技術・家庭科における食に関する指導については、食事の重要性、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力、望ましい食習慣の形成、地域の産物、食文化の理解、基礎的、基本的な調理の知識と技術などを総合的にはぐくむという観点から推進することが必要です。

指導に当たっては、食生活を家庭生活の中で総合的にとらえるという技術・家庭科の特質を生かし、家庭や地域との連携を図りながら健康で安全な食生活を実践するための基礎が培われるよう配慮し、食育の充実を図るようにすることが重要です。



### 生活の課題と実践

### これからの生活を展望する能力と実践的な態度の育成

「生活の課題と実践」に関する指導事項は、学習した知識と技術などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的な態度をはぐくむことの必要性から新たに設定されています。具体的には、A(3)のエ「家族又は幼児の生活についての課題と実践」B(3)のウ「食生活についての課題と実践」C(3)のイ「衣生活又は住生活についての課題と実践」の指導事項であり、一又は二事項を選択して履修させることとなっています。

この学習では、家族・家庭や衣食住の学習に関心を持ち、生活の課題を主体的にとらえ、実践を通してその解決を目指すことにより、生活を工夫する能力や実践的な態度を育てることをねらいとしています。このねらいを踏まえ、各項目で学習した内容を基礎とし、生徒が興味・関心等に応じて家族・家庭や衣食住に関する課題を設定し、主体的に実習や調査などの学習に取り組めるよう配慮することが大切です。





## 1 外国語科授業づくりのポイント

中学校外国語科では、外国語を用いたコミュニケーション能力の基礎を養うことが目標になっているため、外国語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする基礎的な言語活動を計画的、系統的に行うことが必要です。

特に、新学習指導要領では、自分の考えや意見を適切に相手に伝える「発信力」の育成が重視されています。したがって、外国語を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動とともに、コミュニケーションを豊かにするための言語材料を確実に定着する指導を併せて充実する必要があります。

そこで、これからの外国語の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 「発信力」育成に焦点を当てた言語活動の充実

情報や考えを的確に理解し、適切に伝える「発信力」を育成するには、外国語を用いて相手とかかわることが基盤になります。外国語を用いてコミュニケーションする機会は授業中の言語活動が中心になるため、日々の授業において、相手との会話を楽しむことができる時間などを継続的、計画的に確保することが重要です。その際、言語材料についての知識や理解を深める言語活動から、考えや気持ちなどを伝え合う言語活動まで、特に必要な言語活動を段階的に導入し、基礎的、基本的な内容についての指導を十分に行うことが大切です。



### Point 2

#### 言語材料の確実な理解と定着を図る指導の充実

ある程度まとまりのある内容で、情報のやり取りを行ったり、自分の考えや意向を正しく伝え合ったりするコミュニケーション活動を行うためには、文法事項等の言語材料についての理解や定着のための練習が不可欠です。しかし、文法事項を指導する場合、文法理解自体が目的になり、一つの表現を機械的に暗記するような活動になる傾向があるので、比較的運用度の高いものを優先して、具体的な使用場面の中で理解させ、その文法事項を実際に活用することを通して定着を図るように工夫する必要があります。

### Point 3

#### 4技能を総合的に育成する言語活動

新学習指導要領では、4技能を総合的に育成する指導が求められています。このような指導を充実するためには、生徒が実際に情報や考えなどの受け手や送り手となり、語句や文のような断片的な情報だけでなく、意味を持ったメッセージの伝達を行う言語活動を設定する必要があります。また、この場合、言語の使用場面や働きを適切に組み合わせることなどにより、4技能を統合的に活用できる場面を工夫し、言語活動と言語材料を効果的に関連付けてバランスよく指導することが求められます。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

### ◆題材名

- ・実践事例1 「Students in the USA (New Crown English Series Book 1 Lesson 7)」
- ・実践事例2 「At the Zoo (New Crown English Series Book 2 Lesson 3)」
- ・実践事例3 「Gestures around the World (TOTAL ENGLISH 3 Lesson 6)」

Point 1

Point 2

Point 3

を生かした授業

## 1

### 実践のねらいと学習指導のポイント

新しい学習指導要領では、4技能を総合的に育成する指導を充実することにより、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」や内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などを育成することが求められています。このような力を育成するには、特別な教材による授業を定期的実施することも大切ですが、日々の授業において、表現する力に焦点を当てた活動のための時間を継続的に確保することも同じように重要なことです。

また、文法については、コミュニケーションを支えるものとして位置付け、その意味や機能を十分に理解させた上で、既に学んだ語彙や文法事項との関連を図り、言語活動の中で自分の考えや気持ち、事実などを伝え合うことに活用できるように指導することが大切です。

これから紹介する実践事例の特徴は、授業において一定時間の「コミュニケーション活動」を継続的に確保し、4領域を統合した言語活動を行いながら、既に学んだ語彙や文法事項との関連を図り、最終的に「話すこと」「書くこと」による言語産出を期待していることです。

## 2

### 学習指導の実際

#### 1 実践事例1 (第1学年を対象にした授業展開例と言語活動例)





##### (1) 目標 (文法事項)

○現在形 (三人称単数形) と現在進行形の違いを理解し、正しい時制を用いて人の動作を説明することができる。

##### (2) 本時の学習活動

主な学習活動	主な言語材料及び指導上の留意点
	Point 2
<p>★【コミュニケーションタイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○語彙の復習をする。</li> <li>○新出語の導入をする。</li> <li>○ALTとJTEのOral Introductionの中の質問に答えながら本文を理解する。</li> <li>○本文の音読をする。 Repeating → Read &amp; Look Up → ペアで練習</li> <li>○まとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○週末の出来事を過去時制を用いて英語で伝える。</li> <li>○教師が教科書の本文を音読し、定着させたい語の前で音読を止め、生徒にその語を言わせる。</li> <li>○キーワード (Spanish, popular, useful) を導入する。</li> <li>○本時の重要表現の Are they studying English? を強調する。</li> <li>○really等の語は、感情が伝わるように音読させる。</li> </ul>

★ [コミュニケーションタイム] の詳細

主な学習活動	主な言語材料及び指導上の留意点
<p>既習の文法事項を用いて、自分の身近なものや人について説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>[事前のコミュニケーション活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒はペアで職員室に行き、教師に英語でインタビューをする。 Where do you live? What do you treasure? How many children do you have?</li> <li>教師にインタビューして分かったことを、動詞を適切な形に直してクラスに報告する。 I live in Ibara city. → Mr. Tanaka lives in Ibara city. I treasure the collection of old records. → He treasures the collection of old records. I have two boys. → He has two boys.</li> </ul> </div> <p>○黒板にはられた教師の写真を使って説明する。 (図)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">図 教師の写真</p> <p>[生徒の対話例]</p> <p>A: The teacher likes Hanshin Tigers. He lives in Ibara city. He has two boys.</p> <p>B: Is he drinking coffee? A: Yes. B: He's Mr. Tanaka. He is a nice teacher. A: Oh, yes. Thank you.</p>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 20px;"> <span style="background-color: #f00; color: white; padding: 2px 5px; border-radius: 3px;">Point 1</span> </div> <p>○言語活動の例</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>言語活動の形態：ペアワーク コミュニケーションの場面：職員室の入口 コミュニケーションの目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>これから話しかけようとする教師の名前を知るために、その教師に関する情報を相手に伝える。</li> <li>説明を聞いた生徒は、教師の動作を表現することで、教師を特定する。</li> </ol> <p>使用文法事項： 現在時制（三人称単数現在）、現在進行形</p> </div> <p>○指導上の留意点</p> <p>三人称単数の現在時制と現在進行形を使いこなすことは第1学年にとってはやや複雑な活動になるので、円滑に対話を進めるために、二つの時制についての理解を深めておくと同時に、写真の教師の基本的な情報とその教師の行動についてはワークシートに記入して配付しておく。</p> <p>○当該言語活動のはん用性</p> <p>受け身、現在分詞・過去分詞、関係代名詞を定着するための言語活動として有効である。</p>

2 実践事例2 (第2学年を対象にした授業展開例と言語活動例)

(1) 目標 (文法事項)

- 週末の出来事を友達に過去形を用いて伝えることができる。
- will を用いた基礎的な未来表現を理解できる。

(2) 本時の学習活動

主な学習活動	主な言語材料及び指導上の留意点 <span style="float: right; background-color: #f08080; padding: 2px;">Point 2</span>
<p>★ [コミュニケーションタイム]</p> <p>○前時の復習をする。 ○新出語の導入をする。 ○ALT の Oral Introduction 中の質問に答える。 ○本文を理解する上で大切な語（以下「トピックワード」という。）を手がかりに本文を理解する。 ○本文の音読をする。     Repeating → Read &amp; Look Up</p> <p>○まとめをする。</p>	<p>○週末の出来事を過去時制を用いて英語で伝える。</p> <p>○ remain についてはスキットで導入する。     How many Sumatoran tigers remain in the world?</p> <p>○トピックワードを提示する。     remain, disappear, studying, protecting, sell cards</p> <p>○内容のポイントになる英文に着目させる。     They will disappear without our help. Buy one and help us and the animals.</p> <p>○ALT から絶滅にひんしている他の動物についての話を聞く。</p>

★ [コミュニケーションタイム] の詳細

主な学習活動	主な言語材料及び指導上の留意点
<p>トピック（又は使用文法）を限定し、そのトピックについて1分間相手に話す。</p> <p>○活動の目標 <span style="float: right; background-color: #f08080; padding: 2px;">Point 1</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の表現を用いて一つのトピックについて1分程度の発表ができる。</li> <li>・ジェスチャー等を用いて適切に相手に伝える。</li> <li>・聞き手は相手が言ったことに対して適切に相づちを打つ。</li> </ul> <p>[生徒の対話例] A: What did you do during the weeded? B: I went to Tokyo with my friends. We visited Tokyo Disneyland and the Tokyo Tower. We saw Mickey Mouse took us there. We joined a festival. It was very nice. I was hungry. I had lots of sweets. She was kind to us and we were very happy. We visited the Tokyo Tower. It was very beautiful. When I went into the tower, I found many chocolates. I bought some for you. Which do you want, sweets or chocolates? A: Chocolates, please. Thanks. I think you had a good time there.</p>	<p>○本時のトピック</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去時制を用いて、週末にしたことをできるだけたくさん話す。想像上の話でもよい。</li> <li>・その際、When... の節を用いて、その感想を加える。</li> </ul> </div> <p>○指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ どの表現をどの場面でどのように使うかということを具体的に生徒に伝える。</li> </ul> <p>[例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・I went to ~. とした後、visit を使って、具体的な建物等を伝えれば、同じ表現の繰り返しを避けることができ、より自然な英語になる。</li> <li>・場所についての感想を伝えるには、I think 場所 is ~. を使用する。</li> <li>・相手に土産を選んでもらう場合は、Which do you want, ...or ~? とする。</li> </ul> <p>◆対話を活性化させるための話者への指示 [例] ジェスチャーを入れる。</p>

3 実践事例3（第3学年を対象にした言語活動例）

主な学習活動	主な言語材料及び指導上の留意点
<p>— Dictogloss —</p> <p>読み上げられる短い文章などを、メモを取りながら聞き、その後、グループ又はペアでディスカッションしながらその英文を復元する活動である。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4領域のバランスの取れた言語活動で、グループ又はペアで本文を復元する過程で、新しい表現や文法的なミスに対する気付きを促すことができる。また、自分の気持ちや考えを加えて発表（書く）する活動に発展させることも容易にできる。</p> <p>○基本的な活動手順</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然なスピードで話される英文をメモを取りながら聞く。</li> <li>2 メモを持ち寄り、グループ又はペアで本文を復元する。</li> </ol>	<p>○新しい文章を用いて実施することも可能だが、本文理解の後の活動に位置付けると比較的円滑に活動が進む。</p> <p>○生徒が内容を理解し、部分的にでもメモが取れる程度のレベルの短い文章を選ぶ。</p> <p>○文章を読むスピードは遅すぎないようにし、できればナチュラルスピードで聞かせる。</p>

- 3 復元した英文を全体に提示し、他のグループ・ペアが復元したものと比較する。最終的には、文字で提示された元の文章と比較する。

(本文)

During summer vacation, I went to Brazil. A lady that I saw at a restaurant was touching her earlobe. This is a gesture that people use in many countries. In Brazil, people sometimes touch their earlobe when they have eaten something delicious.

[生徒の作品例]

During summer vacation, I went to Brazil. The woman I saw a restrant touch her earlobe something eat delicious.

During sumer vacation. I went to Brazil. The lady I saw at a restaurant tauched her earlobe. This is a gesture people use in many countries. In Brazil, people sometimes touch their earlobe when they have eaten something delicious.

\*下線部は生徒の記述をそのまま転記した。

- 1回目の書き取りでは、筆記用具を持たせず、まずは音声に集中させる。
- 2回目の聞き取りでは、メモを取らせる。生徒の理解に応じて、文と文の間にポーズを長く取ることも考えられる。
- まずは個人で、メモを基に英文を再生させる。次に、互いの情報を共有し、元の文の情報を網羅しているかどうか、それぞれの英文が正しいかどうかについてグループ又はペアで検討し、一つの下稿を完成させる。
- 時間に余裕があれば、数グループの英文を黒板に板書して全員で確認し、どのグループにも共通している誤りについては、説明を加える。

Point 3



## 成果と課題

### 1 成果

やみくもに自分の考えや気持ちを伝え合う活動ではなく、その単元で学習した言語材料に焦点を当て、それを用いる必然性のある場面や条件を設定した活動を設定することで、生徒の積極的な言語産出が期待できます。基本的には、教室外で英語に接することが期待できない環境の中で、生徒の英語のスキルを高めていくことになるので、英語教師の大きな役割は、伝える必然性のある場面を教室に再現し、英語を使いたくなる場面を設定することです。言語活動を計画する場合に忘れてはいけないことは、言葉には必ず使われる必然性があることです。また、生徒が「できた」ことをしっかり評価するプラスのフィードバックを積極的に行うことが大切です。「伝えたいことを英語で表現できた」という実感が自信になり、更に「表現したい」という学習意欲につながり、やがて、自分の考えをまとまりのある一貫した内容で伝える力になります。

### 2 課題

口頭では表現できても書く活動となると、一気に生徒は困難さを感じる傾向があります。しかし、言語材料を確実に習得させるためには、書く活動をより充実させる必要があります。書くことにより文法的な間違いが明確になり、生徒は自分の課題を知ることができます。単元ごとに自己表現作文等を書かせて互いに紹介し合うことにより、書くことに対する抵抗感をなくすとともに、書いて伝える楽しさを経験させることが大切です。

### 実践上の留意点

コミュニケーション能力の育成には、基本的な言語材料についての理解や定着のための練習が欠かせませんが、ともすれば、基礎を重視するあまり文法理解のために一つの表現を暗記してそれを機械的に使用することだけに終始しがちです。コミュニケーション活動が暗号解読のような活動にならないためにも、言語材料についてしっかりと理解と十分な言語活動をバランスよく行うことが大切です。

### 3

## これからの方向性

今回の学習指導要領の改訂で特筆すべきことは、小学校に「外国語活動」が位置付けられたことにより、小学校から高等学校までの教育課程において、外国語教育についての一貫性と連続性が担保されたことです。

小学校での「体験」を持って中学校に、やがて高等学校に入学するということは、小学校で、"What do you want to be?" "I want to be a flight attendant." 等、将来の夢を語ることを体験した児童たちが、中学校に入学してくるということです。それぞれの学校段階において、円滑な接続を図るための実質的な連携が始まろうとしている今、今後の指導において、留意すべき3点を次に示します。

### 言語活動

#### 4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成

特定の技能のみに着目した言語活動を単発的に行う指導では、コミュニケーション能力の基礎の育成は期待できません。実際の言語の使用場面を想定して、例えば、スピーチなど話し手から聞いたことについて自分の意見を述べたりするなど、統合的な活動をしつかりと体験させることが必要です。単元ごとにまとめとして行う表現活動を提示して、単元中の様々な活動が表現活動につながることを意識して学習に取り組ませることが大切です。特に、目標を表現活動（「書く活動」「話す活動」）とすることで、「聞く活動」「話す活動」が表現活動につながる学習であることを意識させ、それぞれの活動に意欲を持って取り組ませる必要があります。

### 小学校からの接続

#### 小学校外国語活動との円滑な接続を考えた指導計画

まず、小学校の担当者と情報交換するなどして、小学校でどのような内容がどのような言語活動の中で、取り扱われているのかを的確に把握しておくことが大切です。特に、多くの小学校で「英語ノート」が活用されることから、「英語ノート」で取り扱われている語彙、表現、発音等については、中学校での学習と関連付けて把握しておくことが必要です。特に、第1学年の指導に当たっては、結果として定着している発音、語彙、表現等のスキルや、文字に触れた生徒の有無等を把握し、小学校外国語活動で育成された「素地」を見極めることが必要です。そのような把握を基にして、必要に応じて指導計画を柔軟に軌道修正する対応が必要です。

### 高等学校への接続

#### 高等学校外国語科との円滑な接続を意識した指導

高等学校での言語活動は、具体的な言語の使用場面を設定して、例えば、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり、意見の交換をしたりする活動へと発展します。中学校での基礎的な内容を定着させるための練習は必要ですが、詳細な文法の説明等に偏ったり、機械的なパターンプラクティスに終始することは適切な指導とは言えません。単元で学習した言語材料に焦点を当て、情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践できるように、具体的な使用場面で活用させることを通して理解、定着させる指導が求められます。





## 1 道徳授業づくりのポイント

中学校学習指導要領解説道徳編（平成20年9月）では、改善の具体的事項として「指導の重点や特色の明確化」「道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方について自覚を深める指導の重視」「道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進体制の充実」等が挙げられています。また、「第3章 道徳」の「第2 内容」の冒頭に「道徳の時間を要<sup>かなめ</sup>として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする」という前文が加えられ、道徳教育において「道徳の時間」が中核的な位置を占めることが、一層明確に示されています。

そこで、中学校道徳の授業づくりにかかわって大切にしたい内容をポイントとして次に示します。

### Point 1

#### 体験活動を生かした授業

体験活動を生かした道徳の授業を行っていくためには、年間指導計画の中に体験活動を適切に位置付けることが大切です。その上で、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動など豊かな体験活動や情操をはぐくむ活動を一層充実させ、他の教職員とのティーム・ティーチング等の多様な指導方法や学習形態を工夫することが求められています。また、伝統と文化にかかわる体験や福祉に関する体験等、道徳の時間以外で行われた体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話し合いに生かし、学習につながりを持たせ、生徒の関心を高めることも重要です。さらに、体験活動での活動内容と似た資料を道徳の時間で活用し、それぞれの指導の効果を高めることも必要です。

### Point 2

#### 魅力的な教材の開発と活用

教材を開発する際には、生徒が自ら課題に取り組み、自己や他者との関係を深く見つめ、生きる希望や勇気を見いだすことができる等の要件を踏まえる必要があります。その中で、地域や郷土に素材を求めたもの、今日的な課題について深く考えることができるもの、中学生の悩みや心の揺れ、学級や学校生活における具体的事柄や葛藤<sup>かつとう</sup>等について深く考えることができるもの、といった新しい視点に立った資料を選定し、生徒が感動を覚えるような魅力的な教材を開発していくことが大切です。

### Point 3

#### 表現する活動の充実

道徳の時間のねらいに迫るために、個々の生徒や学級の実態に応じて、自分の考えを書いたりそれを基に討論したりするなど表現する活動を充実することが大切です。その際、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかといった人間としての生き方にかかわって、生徒同士や自分自身との対話が深まるよう、表現する活動の内容や場面の工夫が一層求められます。

## 2

# 授業づくりのポイントを踏まえた学習指導の実際

- ◆第3学年 内容項目：2－(2)人間愛・思いやり，関連項目：4－(2)よりよい社会の実現  
 単元名 「共に生きる」 **Point 1** **Point 3** を生かした授業

## 1 実践のねらい

社会における人間関係の希薄化により，自己中心的な言動が見られる場面が少なくありません。その中で，他者への配慮と深い思いやりを大切にし，よりよい社会の実現に貢献できる生徒を育てるための効果的な指導を行うことが求められています。そこで，これまでに原爆資料館の見学や被爆体験を聞く広島平和学習などを通して「共に生きる」ことについて考えてきたことを踏まえ，障害のある人の生き方を学ぶことにより，思いやりを大切にし，進んで社会とかわり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てたいと考えました。

本実践では，体験活動，道徳の時間やその他の学習における相互の指導効果を高められるよう図1のような単元指導計画を作成しました。今回は，自分の考えを言語化しやすくするための手だてとして「はい・いいえカード」「ロールレタリング」を活用しました。 **Point 3**

また，体験活動を通して道徳性をはぐくんでいけるよう，これまでの学習や特別活動及び総合的な学習の時間との関連を持たせた指導を工夫しました。 **Point 1**

## 2 学習指導の実際

### 1 「共に生きる」ことを考えさせる単元指導計画 **Point 1**

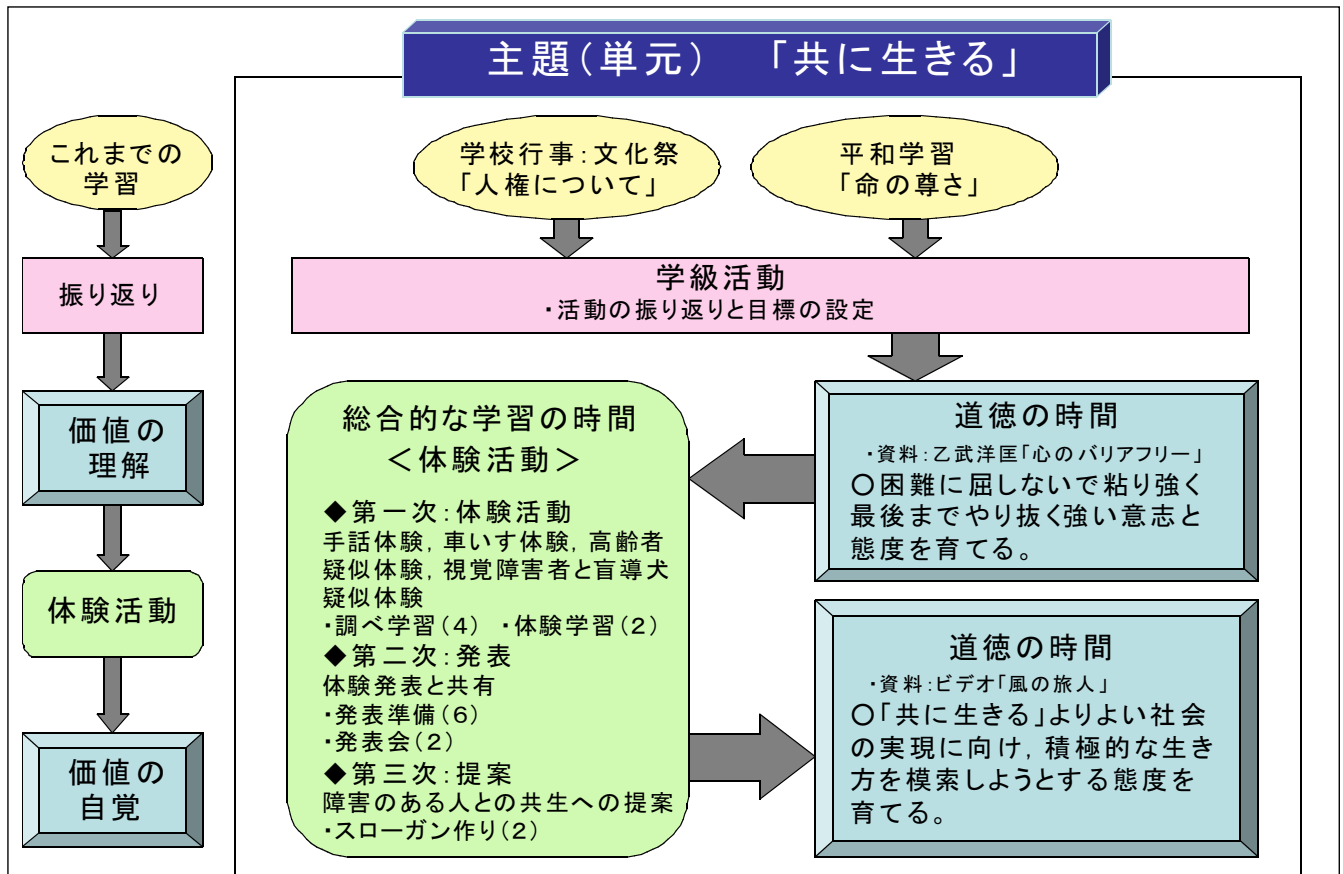


図1 体験活動を生かした単元指導計画



## 2 単元指導計画（全19単位時間）

	主な学習活動〈（ ）内の数字は時間数〉	指導上の留意点
学級活動	◇今までの活動を振り返る。(1)	◆「共に生きる」ことについて考えてきたこれまでの取り組みを振り返り、自己の目標を持たせる。
道徳	◇心のバリアフリーを考える。(1) ・資料 「心のバリアフリー」 おとけひろただ 乙武洋匡 出典「五体不満足」講談社文庫 【内容項目 2-(2)】	◆日々の生活経験を振り返り、互いの思いを小グループで話し合わせることで、困難に直面してもあきらめないで粘り強くやり抜くことの大切さに気付くことができるようにする。
総合的な学習の時間	第一次 <b>Point 1</b> ・四つのグループに分かれて体験する。 〈調べ学習(4) 体験学習(2)〉 第二次 ・体験したことを発表し共有する。 〈発表準備(6) 発表会(2)〉 第三次「障害のある人との共生」(1) ・バリアフリー社会の実現に貢献できる私たちになるためのスローガンを作る。	◆地域の手話グループ、身体障害者、視覚障害者を講師に迎え、体験を通じた気付きや学びを大切にさせる。  <b>体験の想起</b> 個別の体験を言語化し、発表することで、他者と分かち合えるようにする。  ◆体験学習や発表会での体験を基に話し合わせ、バリアフリー社会について考えを深められるようにする。  <b>体験の共有</b> 体験や発表を基にした互いの気付きや学びを共有させる。
道徳	◇共に生きる社会について考える。(2) ・資料 ビデオ「風の旅人」 <b>Point 3</b> (本時)【内容項目 4-(2)】	◆人間理解や他者理解を深め共に学ぶ楽しさや自己の成長に気付き、「共に生きる」よりよい社会の実現を目指すことの大切さを実感できるようにする。
<b>表現し考えを深めるための工夫</b> 「はい・いいえカード」(図3)により自分の考えを持たせ、ロールレタリングを通して他者の立場に対する理解を深めさせた上で、自分の考えを深められるようにする。		

## 3 授業展開例

### (1) 本時の目標

「真の自立」について考えることにより、互いに思いやりの心を持ち、「共に生きる」よりよい社会の実現に向けて積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる。

### (2) 資料

ビデオ「風の旅人」(30分) 原作・監修：牧口一<sup>まきぐちいちじ</sup>二  
制作：(株)電通テック関西支社

#### 〈内容〉

ベッド式車いす(図2)を通りがかりの人に押しもらいながら旅を続けた実在の重度身体障害者(故・宇都宮辰範氏)の生き様を、同じく障害者である牧口一<sup>まきぐちいちじ</sup>氏の思い出としてドラマ化した作品。障害者理解にとどまらず、人間にとって「自立」とは、私たちが生きやすい社会とは、自由な生き方とは、等を問いかけている。

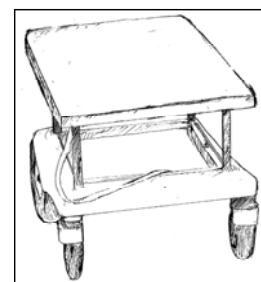




図2 ベッド式車いす(イメージ)

(3) 本時の指導計画（全2単位時間）

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
<p><b>【導入】</b> 宇都宮さんについて知る。</p>	<p>○宇都宮さんの紹介をします。</p> <p>○あなたが宇都宮さんの立場なら旅をしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい 旅行に行ってみたい。<span style="background-color: #f08080; padding: 2px;">Point 3</span></li> <li>でも、一人では困ることが多い。</li> <li>・いいえ ベッド式車いすでは移動に困る。じっとしている方が楽だと思う。どのように見られるかが心配。</li> </ul>	<p>○自分たちが行った体験活動を想起させながら、宇都宮さんの写真を基に、説明する。</p> <p>○「はい・いいえカード」(図3)を用いて自分の立場を明確にした上で意見を交流するよう促す。</p> <div data-bbox="1230 416 1458 591" style="text-align: center;">  </div> <p>図3 はい・いいえカード</p>
<p><b>【展開】</b> ビデオ「風の旅人」を視聴し、宇都宮さんの生き方について考える。</p>	<p>○どんなことが心に残りましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに助けってもらって旅をした心の強さ</li> <li>・人は一人では生きられないという言葉</li> <li>・自分の経験を人に伝えていく姿</li> </ul> <p>○宇都宮さんは、なぜ道行く多くの人の手助けを求めたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者を伴って旅をするより、多くの出会いを求めていたから。</li> <li>・人との出会いを大切にしたいから。</li> <li>・多くの人に障害者の立場を分かってもらいたかったから。</li> </ul> <p>◎「人は一人では生きられない」という宇都宮さんの言葉の意味を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人は支え合って生きている。</li> <li>・人のつながりが大切だ。</li> <li>・互いに協力し合って生きることが大切だ。</li> </ul> <p>○あなたが宇都宮さんの立場なら旅をしますか。もう一度考えてみましょう。</p> <p>○あなたの考えを宇都宮さんへの手紙という形で表現しましょう。さらに、宇都宮さんからの返事も想像して書いてみましょう(図4)。</p>	<p>○視聴した感動を大切にし、その感動を小グループ内で交流させ、前向きな主人公の生き方への共感が高まるようにする。</p> <p>○生徒の心に残った部分を取り上げ、そこから宇都宮さんの生き方への考えを深められるようにする。</p> <p>○多くの人と接することで交流を図りたいという宇都宮さんの思いに触れさせる。</p> <p>○自分の生活を振り返り、自分も多くの人に助けられながら生活していることに気付かせる。</p> <p>○導入時の自分の考えを想起し、比較させることで、自分の考えの変容に気付かせる。</p> <p>○ロールレタリングを取り入れることで、深く自己の内面を見つめることができるようにする。</p>
<p><b>【終末】</b> 本時のまとめをする。</p>	<p>○「総合的な学習の時間」に考えたスローガンを見直してみましょう。</p> <div data-bbox="619 1756 916 2033" style="text-align: center;">  </div>	<p>○「総合的な学習の時間」の活動の写真とスローガンを提示し、これまでの学習を基にして、「共に生きる」ことの意味への理解を深めさせる。</p>

## 1 本時の授業の成果

本時の授業に取り入れた「はい・いいえカード」には、すべての生徒が意見を表明できるという利点があることを実感しました。このカードを効果的に活用するためには、途中で意見を変更しても構わないし、正しい答えというものはない、などと気軽に取り組める雰囲気づくりをした上で利用することが大切だと思いました。また、「ロールレタリング」は、自己の内面や、自己と他者との関係を深く見つめた上で考えを書かせるため、自己理解や他者理解を深める上で効果があることが分かりました（図4）。

また、授業後の感想からは、宇都宮さんの「本当の自立は、他者の力をどれだけ借りられるかにかかっている」という考え方に触れ、「障害のある人の生活は、物理的な障害を取り除き、手助けをすればよい」という最初に抱いた考えを、「共に生きる社会を実現するためには、バリアフリー、つまり心の壁を取り除くことが最も大切である」という考えに深めることができたことがうかがえました。

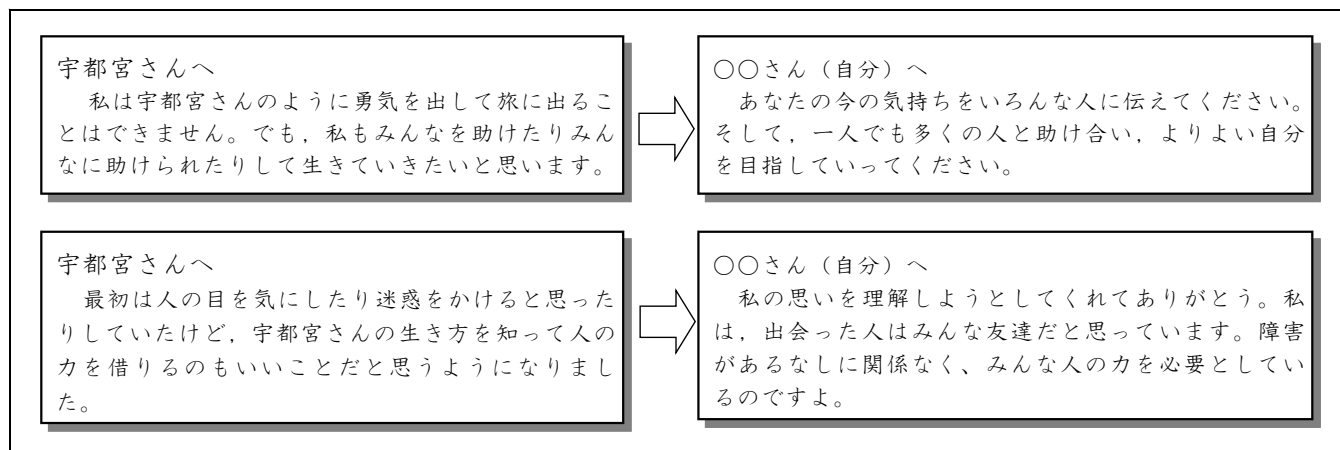


図4 生徒が書いたロールレター（一部抜粋）

## 2 今後の課題

今回の実践では、「共に生きる」という視点を学習の中心に位置付け、他の学習や道徳の授業と体験活動とを密接に関連付けた指導に取り組みました。それにより、体験に照らした自分の考えを積極的に発言したり、他者への思いやりの心を言葉で表現したりすることができるよう生徒が増えていきました。生徒は、様々な活動を通して多くのことを意識的、または無意識的に感じたり考えたりしているものです。そこで今後は、それらの体験に関連する資料を基に討論する活動を取り入れるなど、多様な指導方法を工夫し、単元指導計画に基づいた道徳授業づくりを行っていくことが大切です。

### 実践上の留意点

「はい・いいえカード」や「ロールレタリング」は、自分の考えを言葉で表現するための有効な手段ですが、使用する場面の設定や内容の精選など、ねらいとの関連を吟味した上で使用することが大切です。「ロールレタリング」は、生徒自身の素直な心情の吐露から始まります。そこで、生徒が本音で語り合える学級での温かい人間関係を深めておくことが大切です。

## 3

### これからの方向性

道徳教育の一層の充実を図るために、各学校の特色や実態及び課題に即した全体計画の作成は大変重要です。その中での道徳の時間の位置付け、また、全教師の協力によって道徳教育を充実させていくための道徳教育推進教師の役割についても、十分に認識を深めていただきたいと思います。これからの方向性として、大切にしたい三つの内容を次に示します。

#### 指導計画

#### 道徳教育の基本方針を具現化するための留意点

全体計画の中軸は、学校の設定する道徳教育の基本方針です。したがって、全体計画は、これを具体化する上で、学校として特に工夫し、留意すべきことは何か、各教育活動がどのような役割を分担するのか、家庭や地域社会との連携をどう図っていくのかなどについて総合的に示すものでなければなりません。

具体的な留意点として、全教師の協力・指導体制を整えること、具体的な取り組みを明確にし、教師の意識の高揚を図ること、各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにすること、保護者及び地域の人々の意見を活用すること、学校間交流、関係諸機関との連携に心がけること、計画の実施及び評価・改善のための体制を確立することなどが挙げられます。

#### 他教科等との関連

#### 道徳の時間を道徳的価値を深める要とする工夫

豊かな体験は、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に資するものです。これらの体験活動を通して生徒が気付く様々な道徳的価値は、それらが持つ意味や大切さなどについて深く考える道徳の時間を通して、より確かな道徳的実践力として定着します。

また、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等における道徳教育を補充、深化、統合し、要としての役割を果たす道徳の時間の特質を踏まえ、ねらいに含まれる道徳的価値の側面から他の教育活動との関連を把握し、事前の指導や事後の指導などを工夫することが重要です。例えば、社会科における「身近な地域」の学習、保健体育科におけるチームワークを重視した学習、総合的な学習の時間における異文化理解の学習との関連などにおいて、学習の時期や教材を考慮したり、相互に連続させたりすることで、指導の効果を一層高めることができます。

#### 指導体制

#### 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

道徳教育推進教師の役割として、指導計画の作成の推進役になることはもちろん、授業を実施する上での悩みを抱える教師の相談役になったり情報提供をしたりして支援することや、道徳の時間に関する授業研究の実施、授業の公開や情報発信などを中心になって行うことが挙げられます。また、教材や図書の準備、掲示物の充実、資料コーナー等の整備などの環境づくりに関しても、全教師が分担して進められるよう呼びかけをしたり、具体的な場をつくったりすることなどが考えられます。

道徳の時間の指導を計画的に推進し、また、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、学校の全教師が協力しながら取り組みを進めていくことが大切です。道徳教育推進教師が全体を掌握しながら、全教師の参画、分担、協力の下に道徳教育が円滑に推進され、充実していくように働きかけていくことが望まれます。

平成20・21年度岡山県総合教育センター共同研究  
「新学習指導要領を踏まえた新しい授業づくりに関する研究」  
研究協力委員会

研究協力委員

重松 裕美	岡山市立興除中学校教諭
角田 正和	早島町立早島中学校教諭
森田 圭一	岡山県立岡山操山中学校教諭
山田 真司	総社市立総社中学校教諭
山田 稔	津山市立津山東中学校教諭
大場 智美	岡山県立岡山操山中学校教諭
内田ちひろ	倉敷市立北中学校教諭
辻 政宏	岡山市立東山中学校教諭
平田 朝一	和気町立和気中学校教諭
武田 祥憲	岡山市立岡山中央中学校教諭
南 隆仁	美咲町立旭中学校教諭
日吉 康幸	玉野市立宇野中学校教諭
長谷川正英	倉敷市立北中学校教諭
武田 理恵	総社市立総社東中学校教諭
赤木 伸	高梁市立川上中学校教諭
坂本 豊子	津山市立津山西中学校教諭

授業実践事例提供者

小橋 和子	岡山大学教育学部附属中学校教諭
-------	-----------------

長尾 紀江	岡山県総合教育センター教科教育部長
岡本 秀行	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（主幹）（平成20年度） （現 岡山県立倉敷鷺羽高等学校教諭）
大月 一泰	岡山県総合教育センター教育経営部指導主事
金井 庸記	岡山県総合教育センター教育経営部指導主事
仲達 修一	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
土田 雅己	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
川西 隆	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
信宮 誠	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
前田 敦子	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
久山 将弘	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
正好 東洋	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
長谷川陽子	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
山田 恭之	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事
宗好慶太郎	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（主任）（平成21年度）
西林 哲郎	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（平成21年度）
田中誠一郎	岡山県総合教育センター教科教育部指導主事（主任）（平成21年度）

平成22年2月発行

授業実践事例集  
中学校編

編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-MAIL [kyoikuse@pref.okayama.jp](mailto:kyoikuse@pref.okayama.jp)

Copyright © 2010 Okayama Prefectural Education Center

\*本文掲載イラストは、株式会社ジャストシステム、神奈川県立総合教育センターのものを使用しています。

